



2013 年フルクテンバウム博士セミナー

聖書は千年王国について 何を教えているか



講師：アーノルド・フルクテンバウム博士

通訳：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

目 次

I. 千年王国を信じる根拠	1
A. ユダヤ的契約の中には、成就していない約束がある。	1
B. 預言者が語った預言の中には、成就していない預言がある。	2
C. まとめ	2
II. 千年王国の一般的な特徴	2
A. 詩 15：1～5	3
B. 詩 24：1～6	3
C. イザ 2：2～4	3
D. イザ 11：6～9	4
E. イザ 65：17～25	4
F. ミカ 4：1～5	6
G. まとめ	6
III. メシア的王国の統治形態	7
A. 王：メシアである主イエス	7
B. 異邦人部門の統治形態	12
C. ユダヤ人部門の統治形態	13
IV. メシア的王国におけるイスラエル	17
A. イスラエルの最終的回復の 4 つの側面	17
B. イスラエルの最終的回復に関する他の特徴	32
C. 【主】の家の山	35
D. 千年王国の神殿：エゼ 40：5～43：27	39
E. 千年王国における祭司と祭儀制度：エゼ 44：1～46：24	41
F. 千年王国の川：エゼ 47：1～12	42
G. 千年王国のイスラエル：エゼ 47：13～48：29	43
H. 千年王国のエルサレム：エゼ 48：30～35	44
V. 千年王国における異邦人	47
A. 一般的特徴	47
B. 仮庵の祭りを守る責務	50
C. アラブ諸国	50
D. 千年王国における 2 つの荒廃した地	56

VI. メシア的王国の終わり	57
A. サタンの解放と最後のイスラエルへの侵略	57
B. 大きな白い御座の裁き	58
VII. 永遠の秩序	61
A. 過ぎ去る古い秩序と永遠の秩序の創造：黙 21：1～8	61
B. 永遠の新しいエルサレム：21：9～22：5	63
チャート 1. 聖なる奉納地	68
チャート 2. 千年王国におけるイスラエル	69

I. 千年王国を信じる根拠

* 千年期前再臨説への批判

- ・黙示録 20 章にしか、「千年」という年数は出てこない。
- ・黙示録は、象徴的言語が多用されている書である。
- ・従って、「千年」を文字通りに解釈するのは愚かである。

* 批判への反論

- ・黙示録にある象徴的言語は、黙示録の中か、聖書の他の箇所でも説明されている。
- ・黙示録の中では、「years」が象徴的に用いられている例はない。
- ・もしそれが象徴的言語であるとするなら、その解説がないのは不思議である。
- ・1,260 日、42 ヶ月、3 年半などは、すべて文字通りの意味である。
- ・黙示録 20 章では、「千年」という言葉が 6 回記録されている。

* 千年王国を信じる根拠は、黙示録 20 章以外にもある。

- ・ユダヤ的契約の中には、成就していない約束がある。
- ・預言者が語った預言の中には、成就していない預言がある。

A. ユダヤ的契約の中には、成就していない約束がある。

* 神がイスラエルと結んだ 4 つの無条件契約がある。

* これらの契約は、千年王国という枠組みの中で成就する。

* アブラハム契約

- ・永遠の子孫の約束
 - ・そこから出て来るひとつの国は、土地を所有するようになる。
 - ・国境線を持った約束の地
 - ・イスラエルの民は、約束の地のすべてを所有したことがない。
 - ・土地の約束は、アブラハム個人にも与えられている。
- 「永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう」(創 13:15b)
- ・土地の約束が成就するためには、千年王国がなければならない。

* 土地の契約

- ・ユダヤ人の世界離散はすでに起こり、今もその影響が続いている。
- ・ユダヤ人の帰還と土地の再所有が約束されている。
- ・この約束の最終的な成就是、千年王国で起こる。

B. 預言者が語った預言の中には、成就していない預言がある。

＊ダビデ契約（4つのことを約束している）

- ・永遠の王朝（家）
- ・永遠の王座
- ・永遠の王国
- ・永遠の王

- ・イエシュアはまだダビデの王座に着いて、イスラエルを統治したことがない。
- ・以上のことは、千年王国にて成就する。

＊新しい契約

- ・民族的新生とイスラエルの救いを約束している。
- ・これもまた、千年王国の到来を指し示している。

B. 預言者が語った預言の中には、成就していない預言がある。

＊ダビデの王座に着くメシアが到来するという預言が、多数ある。

＊メシア的王国に関する預言も、多数ある。

＊メシア的王国を信じる根拠は、預言の字義通りの解釈にある。

＊黙示録 20 章の貢献は、「千年」という期間の啓示である。

＊大患難時代に関しては、詳細な取り扱いがある（黙 4～19 章）。

- ・旧約聖書にある大患難時代に関する預言を時間順に並べたもの

＊メシア的王国に関しては、詳細な説明が不要である。

- ・黙示録 20 章では、どれくらいの期間続くかという情報が啓示された。
- ・さらに、どのようにして千年王国から永遠の秩序に移行するかも、啓示された。

C. まとめ

＊千年王国を信じる根拠は、黙示録 20 章以外にもある。

- ・ユダヤ的契約の中には、成就していない約束がある。
- ・預言者が語った預言の中には、成就していない預言がある。

II. 千年王国の一般的な特徴

- *旧約の預言者たちは、千年王国に関する多くの預言を残している。
- *その中から、千年王国の一般的な特徴を教えている預言を紹介する。

A. 詩 15：1～5

- 15:1 【主】よ。だれが、あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが、あなたの聖なる山に住むのでしょうか。
- 15:2 正しく歩み、義を行い、心の中の真実を語る人。
- 15:3 その人は、舌をもってそしらず、友人に悪を行わず、隣人への非難を口にしない。
- 15:4 神に捨てられた人を、その目はさげすみ、【主】を恐れる者を尊ぶ。損になっても、立てた誓いは変えない。
- 15:5 金を貸しても利息を取らず、罪を犯さない人にそむいて、わいろを取らない。このように行う人は、決してゆるがされない。

- *この箇所は、王国の市民の特徴を描写している。
- *全員ではないが、王国ではほとんどの者がこのような特徴を持っている。

B. 詩 24：1～6

- 24:1 地とそれに満ちているもの、世界とその中に住むものは【主】のものである。
- 24:2 まことに主は、海に地の基を据え、また、もろもろの川の上に、それを築き上げられた。
- 24:3 だれが、【主】の山に登りえようか。だれが、その聖なる所に立ちえようか。
- 24:4 手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。
- 24:5 その人は【主】から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。
- 24:6 これこそ、神を求める者の一族、あなたの御顔を慕い求める人々、ヤコブである。

- *王国の確立
- *王国において、神との正しい関係にある人の特徴

C. イザ 2：2～4

- 2:2 終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。
- 2:3 多くの民が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、

エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

2:4 主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。

* 普遍的平和は、千年王国の主な特徴のひとつとなる。

* 国々間の紛争は、エルサレムから出る【主】のことばによって解決される。

* 戦争のことは忘れられている。

D. イザ 11：6～9

11:6 狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。

11:7 雌牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。

11:8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。

11:9 わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。【主】を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。

* 普遍的平和は、動物界にも及ぶ。

* 6～7 節。エデンの園の状態の回復。野獣が草食動物になる。

* 8 節。人間と蛇が、平和に共存するようになる。

* 9 節。【主】に関する知識が世界に満ちるので、人間も動物も影響を受ける。

E. イザ 65：17～25

65:17 見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。先の事は思い出されず、心に上ることもない。

65:18 だから、わたしの創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。

65:19 わたしはエルサレムを喜び、わたしの民を楽しむ。そこにはもう、泣き声も叫び声も聞かれない。

65:20 そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命の満ちない老人もない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。

65:21 彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。

65:22 彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。わたしの民の寿命は、木の寿命に等しく、わたしの選んだ者は、自分の手で作った物を存分に用いることができるからだ。

- 65:23 彼らはむだに労することもなく、子を産んで、突然その子が死ぬこともない。彼らは【主】に祝福された者のすえであり、その子孫たちは彼らとともにいるからだ。
- 65:24 彼らが呼ばないうちに、わたしは答え、彼らがまだ語っているうちに、わたしは聞く。
- 65:25 狼と子羊は共に草をはみ、獅子は牛のように、わらを食い、蛇は、ちりをその食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない」と【主】は仰せられる。

＊17 節 新しい天と新しい地の創造が宣言される。

- ・黙 21～22 章の新天新地と混同しないように。
- ・この箇所は、千年王国の預言である。
- ・千年王国は、現在の天と地の修復である。
- ・「創造」という言葉は、神の奇跡的な業であることを示している。
- ・千年王国では、古い時代のものと、全く新しいものとが併存する。
- ・イスラエルの地も、修復を通過する。
- ・地中海や死海は依然として存在する。
- ・国の中央に出現する高い山は、新しい要素である。

＊18～19 節

- ・千年王国のエルサレムの描写

＊20 節 千年王国での生と死についての預言

- ①幼児の死はない。
- ②死ぬ人の年齢は、100 歳である。それでも若くして死んだとされる。
- ③死ぬのは未信者のみである。

＊まとめ

- ・千年王国の最初は、自然人（ユダヤ人も異邦人も）はすべて信者である。
- ・ユダヤ人は全員、メシアの再臨の前に救われる。
- ・未信者の異邦人（白い御座の裁きでの「山羊」の異邦人）
大患難時代と千年王国の間の期間（75 日）に、殺される。
- ・信者の異邦人（「羊」の異邦人）
千年王国に入れられる（マタ 25：31～46）。
- ・時間の経過とともに、ユダヤ人にも異邦人にも子どもが誕生する。
- ・彼らは原罪を宿しており、新生体験を必要としている。
- ・サタンが閉じ込められたため、誘惑は減少するが、罪を犯す可能性は残っている。
- ・救いの方法は、信仰と恵みによる。
- ・信仰の内容は、メシアの死と復活である。
- ・千年王国で誕生した自然人には、信じるために 100 年の期間が与えられる。

- ・信じない人は 100 歳で死ぬが、信じる人は千年王国を生き延びる。
- ・千年王国の聖徒の復活がないのは、彼らが死なないからである。
- ・大患難時代の聖徒の復活が、第 1 の復活の最後である（黙 20：4～6）。
- ・エレ 31：31～34 によれば、千年王国ではユダヤ人の未信者は存在しない。
- ・千年王国で誕生するユダヤ人は、全員、100 歳までにメシアを受け入れる。

＊21～24 節

- ・個人的な平和と繁栄の時代
- ・建設と植樹の時代
- ・労働の結果が祝される（21～22a）。
- ・悲劇や労苦はなく、神からの語りかけが常にある（22b～24）。
- ・動物世界にも平和がある（25 節。イザ 11：6～9 と同じ）。

F. ミカ 4：1～5

- 4:1 終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、国々の民はそこに流れて来る。
- 4:2 多くの異邦の民が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。
- 4:3 主は多くの国々の民の間をさばき、遠く離れた強い国々に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。
- 4:4 彼らはみな、おのおの自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下にすわり、彼らを脅かす者はいない。まことに、万軍の【主】の御口が告げられる。
- 4:5 まことに、すべての国々の民は、おのおの自分の神の名によって歩む。しかし、私たちは、世々限りなく、私たちの神、【主】の御名によって歩もう。

＊1～3 節は、イザ 2：2～4 と同じである。

- ・【主】の家の山が、世界中の異邦人の関心の的となる。
- ・シオンからメシアの教えが出る。
- ・普遍的な平和が支配するので、戦争はない。

＊4 節は、個人的な平和と繁栄を預言している。

＊5 節は、イスラエルの神への従順を預言している。

G. まとめ

- * サタンは閉じ込められるので、罪と死が激減する（完全に消えるわけではない）。
- * 普遍的、かつ、個人的な平和と繁栄の時代である。
 - ・ 人と人、動物と動物、そして、人と動物の間に平和がある。
 - ・ 多くの呪いが取り除かれる（呪いが完全になくなるわけではない）。
- * 真理、聖潔、義が特徴となる時代
- * 正義は、エルサレムから執行される。
- * 建設と植樹の時代、労働が祝される時代である。

Ⅲ. メシア的王国の統治形態

- * メシア的王国の統治形態は、専制君主制による統治である。
 - ・ メシアであるイエシュアが専制君主である。
- * 権威の委譲は、ユダヤ人部門と異邦人部門に 2 分されて行われる。

A. 王：メシアである主イエス

- * 旧約聖書の明確な教え
 - ・ 王国において、メシアがダビデの王座に着き、イスラエルを統治する。
 - ・ メシアの統治は、すべての異邦人諸国に及ぶ。
- * ダビデ契約がそれを保証している。
 - ・ ダビデ契約に関しては、すでに取り上げた。
 - ・ ここでは、メシアが王として実際の王国を統治するという預言のみ取り上げる。

1. 王座の設立

詩 2：6～8

- 2:6 「しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。」
- 2:7 「わたしは【主】の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』
- 2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地をその果て果てまで、あなたの所有として与える。
- * 神が御子をエルサレムで王として擁立するというのは、聖書の明確な教えである。
 - * メシアの王座はエルサレムに設立されるが、その統治はすべての異邦人諸国に及ぶ。

イザ 9：6～7

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。

*6 節 a ダビデの家系から生まれるひとりの男の子。主権はその肩にある。

*6 節 b その名は、神ご自身の御名である。

- ・この神人が、ダビデ王朝、ダビデの王位、そして御国の永続性を保証する。
- ・人としては、ダビデの子孫である。
- ・神としては、永遠のお方であり、その王座も永遠である。

*7 節 メシア的王国の統治原則

- ・主権と平和は、増し加わる。
- ・メシアの統治は永遠に続く。
- ・正義と義による統治がその特徴である。
- ・【主】の熱心がメシア的王国成就の保証である。

イザ 16 : 5

16:5 一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかに行う者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。

*神の恵みのゆえに、王座が設立される。

*王座に着くのは、ダビデの家系の者である。

*彼は、王であり裁き主である。義なる裁きが行われる。

エレ 23 : 5~6

23:5 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う。

23:6 その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、『【主】は私たちの正義』と呼ばれよう。

*ダビデの子孫がダビデの王座に着く。

*その方は、「【主】は私たちの正義」と呼ばれる。つまり、神人である。

*神人の統治であるがゆえに、公義と正義が保証される。

*この方の内に、イスラエルの安全がある。

エレ 33 : 14~17

33:14 「見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家

とユダの家に語ったいつくしみのことばを成就する。

33:15 その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を芽ばえさせる。彼はこの国に公義と正義を行う。

33:16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの町は、『【主】は私たちの正義』と名づけられる。」

33:17 まことに【主】はこう仰せられる。「ダビデには、イスラエルの家の王座に着く人が絶えることはない。

＊14 節 ダビデ契約成就の再確認

＊15～16 節 エレ 23：5～6 の再記述

＊17 節 ダビデの家が途絶えることはない。

＊エレ 33 章の残りの部分は、ダビデ契約を成就するという神の意図を記している。

ゼカ 14：9

14:9 【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。

＊王座はエルサレムに設立されるが、王の統治は全世界に及ぶ。

＊メシアは全世界の頭であり、人類全体がメシアを唯一の神と認める。

ルカ 1：30～33

1:30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。

1:31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。

1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

＊30～31 節 マリヤへの受胎告知

＊32 節 その男の子の将来の権威の預言

・神人としてダビデの王座に着く。

＊33 節 その男の子はイスラエルを統治し、その統治には終わりはない。

＊天使ガブリエルの告知は、ダビデ契約と旧約預言に基づくものである。

2. メシアの統治の特徴

黙 12：5

12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

＊メシアは、鉄の杖をもって統治する。

黙 19：15

19:15 この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。

*詩 2：9 参照

*厳しい統治が必要な理由は、第2世代以降未信者が存在するようになるから。

*王国の統治形態は、民主主義ではなく、専制君主制である。

*エルサレムから出る教えには、服従する必要がある。

詩 24：7～10

24:7 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。

24:8 栄光の王とは、だれか。強く、力ある【主】。戦いに力ある【主】。

24:9 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。

24:10 その栄光の王とはだれか。万軍の【主】。これぞ、栄光の王。

*王国の統治は、千年王国のエルサレムに王が入城することから始まる。

詩 72：1～7

72:1 神よ。あなたの公正を王に、あなたの義を王の子に授けてください。

72:2 彼があなたの民を義をもって、あなたの、悩む者たちを公正をもってさばきますように。

72:3 山々、丘々は義によって、民に平和をもたらしますように。

72:4 彼が民の悩む者たちを弁護し、貧しい者の子らを救い、しいたげる者どもを、打ち碎きますように。

72:5 彼らが、日と月の続くかぎり、代々にわたって、あなたを恐れますように。

72:6 彼は牧草地に降る雨のように、地を潤す夕立のように下って来る。

72:7 彼の代に正しい者が栄え、月のなくなるときまで、豊かな平和がありますように。

*王の統治の特徴は、公正と正義と清潔である。

*罪のない者は義を受け、罪人は裁きを受ける。

詩 72：8～11

72:8 彼は海から海に至るまで、また、川から地の果て果てに至るまで統べ治めますように。

72:9 荒野の民は彼の前にひざをつき、彼の敵はちりをなめますように。

72:10 タルシシュと島々の王たちは贈り物をささげ、シェバとセバの王たちは、みつぎを納

めましょう。

72:11 こうして、すべての王が彼にひれ伏し、すべての国々が彼に仕えましょう。

* 王の統治は普遍的で、全世界に及ぶ。

* 「海から海に至る」とは、千年王国のイスラエルの国境を示す。

・ 地中海（西）から死海（東）まで

* 「川から」とは、ユーフラテス川のこと（北の境界）。

* 南の境界は、「地の果て果てに至るまで」である。王の統治の普遍性を示している。

* 王の友も敵も、ともに王に従う（9節）。

* 諸国のすべての王たちが、メシア的王の前にひれ伏す。

詩 72：12～15

72:12 これは、彼が、助けを叫び求める貧しい者や、助ける人のない悩む者を救い出すからです。

72:13 彼は、弱っている者や貧しい者をあわれみ、貧しい者たちのいのちを救います。

72:14 彼はしいたげと暴虐とから、彼らのいのちを贖い出し、彼らの血は彼の目に尊ばれましょう。

72:15 それゆえ、彼が生きながらえ、彼にシェバの黄金がささげられますように。彼のためにいつも彼らは祈り、一日中、彼をほめたたえますように。

* 王は「鉄の杖」で統治し、不義を正される。

* 義人は、高く上げられる。

詩 72：16

72:16 地では、山々の頂に穀物が豊かにあり、その実りはレバノンのように豊かで、町の人々は地の青草のように栄えますように。

* 豊かな収穫の約束

詩 72：17～19

72:17 彼の名はとこしえに続き、その名は日の照るかぎり、いや増し、人々は彼によって祝福され、すべての国々は彼をほめたたえますように。

72:18 ほむべきかな。神、【主】、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。

72:19 とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。その栄光は地に満ちわたれ。アーメン。アーメン。

* 王による祝福

* すべての人は、王をほめたたえる。

* 王は、永遠の神人である。

イザ 11：1～5

- 11:1 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。
- 11:2 その上に、【主】の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと能力の霊、主を知る知識と【主】を恐れる霊である。
- 11:3 この方は【主】を恐れることを喜び、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、
- 11:4 正義をもって寄るべのない者をさばき、公正をもって国の貧しい者のために判決を下し、口のむちで国を打ち、くちびるの息で悪者を殺す。
- 11:5 正義はその腰の帯となり、真実はその胸の帯となる。
- * 王の出自は、ダビデの家である（1 節）。
 - * 王には聖霊が余すところなく与えられている（神の霊の 7 つの表れ）（2 節）。
 - * 聖霊の付与がもたらす 5 つの結果（3～4 節）
 - * 王の統治の特徴は、正義と真実である（5 節）。

まとめ

- * 主イエスは、イスラエルの王であり、世界の王である。
- * この王との絶対的な権威の下に、2 つの統治部門が設立される。
 - ・ 異邦人部門とイスラエル部門

B. 異邦人部門の統治形態

1. 教会時代の聖徒と、大患難時代の聖徒

黙 20：4～6

- 20:4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。
- 20:5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。
- 20:6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。
- * 4 節 メシアとともに統治する聖徒たちのグループがいる。
 - ① 4 節 a 裁きを受ける者たち。携挙された教会時代の聖徒たち。
 - 裁きとは、メシアの御座の裁きである。
 - 聖徒が行った業に対する評価。これによって、御国での地位が決まる。

②4 節 b 「イエスのあかしのゆえに首をはねられた人たち」がいる。

大患難時代の前半に殉教の死を遂げた聖徒たち

第 5 の封印の箇所には彼らへの言及がある（黙 6：9～11）。

③4 節 c 「獣やその像を拝まず、…獣の刻印を押されなかった人たち」

大患難時代の後半に死んだ聖徒たち

*ここまでで、第 1 の復活が完結する。

*イエシュアは、第 1 の復活の初穂となられた（1 コリ 15：23）。

*教会時代の聖徒たちは、大患難時代の前の携挙で復活する（1 テサ 4：16）。

*旧約時代の聖徒（イザ 26：19、ダニ 12：2）と大患難時代の聖徒（黙 20：4）は、75 日の中間期に復活する。

*千年王国での死は、不信者のみ。それゆえ、復活はない。

*第 2 の復活（不信者の復活）は、それから千年後に起こる。

*教会時代の聖徒と大患難時代の聖徒は、メシアとともに異邦人諸国を統治する。

*彼らは、王の代理人として、王の法令を執行する。

2. 王たち

*詩 72 篇にあったように、異邦人諸国には王たちがいる。

*王たちは自然の肉体を有するが、聖徒たちは復活の体、栄光の体を持つ。

*王たちは、聖徒たちの権威に服す。

*メシア→教会の聖徒と大患難時代の聖徒→異邦人諸国の王たち、という序列である。

C. ユダヤ人部門の統治形態

1. ダビデ：王であり君主

*復活したダビデが、王であるメシアの直属下で、イスラエルに対して権威を持つ。

*ダビデは、王であり、君主である。

*異邦人諸国の王たちとダビデの違いは、前者は自然人、後者は復活の体を持つこと。

エレ 30：9

30:9 彼らは彼らの神、【主】と、わたしが彼らのために立てる彼らの王ダビデに仕えよう。

*イスラエルは【主】に仕えるだけでなく、王ダビデにも仕える。

エゼ 34：23～24

34:23 わたしは、彼らを牧するひとりの牧者、わたしのしもべダビデを起こす。彼は彼らを

養い、彼らの牧者となる。

34:24 【主】であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデはあなたがたの間で君主となる。【主】であるわたしがこう告げる。

*イスラエルは、ひとつの国として回復される。

*復活したダビデが、君主として彼らに仕える。

*【主】は彼らの神であり、絶対的な王である。

*ダビデは、その王の下で君主として仕える。

エゼ 37：24～25

37:24 わたしのしもべダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただひとりの牧者となる。彼らはわたしの定めに従って歩み、わたしのおきてを守り行う。

37:25 彼らは、わたしがわたしのしもべヤコブに与えた国、あなたがたの先祖が住んだ国に住むようになる。そこには彼らとその子らとその子孫たちとがとこしえに住み、わたしのしもべダビデが永遠に彼らの君主となる。

*ダビデは王として、イスラエルを統治する。

*またダビデは、イスラエルの牧者であり、君主である。

*ダビデの指導のもと、イスラエルは神のおきてを守り行うようになる。

*土地と王ダビデは、彼らの手に回復される。

ホセ 3：5

3:5 その後、イスラエル人は帰って来て、彼らの神、【主】と、彼らの王ダビデを尋ね求め、終わりの日に、おののきながら【主】とその恵みに来よう。

*エレミヤ、エゼキエルと同じ内容の預言

*イスラエルは、神に対してだけでなく、王ダビデにも仕える。

まとめ

*ダビデという言葉は比喩的に解釈し、それはメシアを指すと考える人がいる。

*しかし、ダビデという言葉的字義通りに解釈してはならないという理由はない。

*もしダビデが比喩的にメシアを指すなら、以下のような言葉が使われるはずである。

・エッサイの根、ダビデの枝、ダビデの子、ダビデの子孫

*字義通りに、復活したダビデが王となり、君主となる。

2. 12 部族を統治する 12 使徒

マタ 19：28

19:28 そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、

イスラエルの十二の部族をさばくのです。

* タイミングは、「世が改まって」とある。

* メシアが回復されたダビデの王座（栄光の座）に着く時

* その時、12 の王座が 12 部族の上に立てられる。

* 12 使徒は、それぞれの王座に着き、統治する。

ルカ 22：28～30

22:28 けれども、あなたがたこそ、わたしのさまざまの試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。

22:29 わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます。

22:30 それであなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。

* メシアの統治は全世界に及ぶ。

* ダビデの統治はイスラエルの上にある。

* 使徒たちの統治は、特定の部族の上にある。

①使徒たちは、メシアの食卓に着く。

②使徒たちは、王座に着き、特定の部族を裁く。

* どの使徒がどの部族を統治するかは、啓示されていない。

3. 首長たち（高官たち、君たち）（The Princes）

イザ 32：1

32:1 見よ。ひとりの王が正義によって治め、首長たちは公義によってつかさどる。

* 主イエスが王として統治する。

* それ以外に、首長たちと呼ばれる統治者たちが存在する。

エゼ 45：8

45:8 これがイスラエルの中の彼の所有地である。わたしの君主たちは、二度とわたしの民をしいたげることなく、この地は部族ごとに、イスラエルの家に与えられる。

* ここでも、君主（The Princes）の存在が預言されている。

* 彼らは、圧制を行わない。

* 彼らは、12 部族に土地を分割する権威を受けている。

ハガ 2：20～23

2:20 その月の二十四日、ハガイに再び次のような【主】のことばがあった。

2:21 「ユダの総督ゼルバベルに次のように言え。わたしは天と地とを揺り動かし、

2:22 もろもろの王国の王座をくつがえし、異邦の民の王国の力を滅ぼし、戦車と、それに乗る者をくつがえす。馬と騎兵は彼ら仲間同士の剣によって倒れる。

2:23 その日、——万軍の【主】の御告げ——シェアルティエルの子、わたしのしもべゼルバベルよ、わたしはあなたを選び取る。——【主】の御告げ——わたしはあなたを印形のようにする。わたしがあなたを選んだからだ。——万軍の【主】の御告げ——」

*復活したゼルバベルが、これらの首長たちのひとりとなる可能性が大である。

*21～22 節 天と地が売り動かされ、侵略軍が滅ぼされる。

・これらの出来事は、再臨の時に起こる。

*23 節 ゼルバベルに高い地位が約束される。

・神に近い地位。印形のように近い。

・ゼルバベルは、ダビデの家系から出た人である。

4. さばきつかさたちと議官たち（参議たち）

イザ 1：26

1:26 こうして、おまえのさばきつかさたちを初めのように、おまえの議官たちを昔のようにしよう。そうして後、おまえは正義の町、忠信な都と呼ばれよう。」

*エルサレムに関連した地位

*正義の執行が、彼らの役割である。

5. 異邦人を統治するイスラエル

申 15：6

15:6 あなたの神、【主】は、あなたに約束されたようにあなたを祝福されるから、あなたは多くの国々に貸すが、あなたが借りることはない。またあなたは多くの国々を支配するが、彼らがあなたを支配することはない。

*イスラエルは、異邦人諸国の上に立つ。

申 28：1

28:1 もし、あなたが、あなたの神、【主】の御声によく聞き従い、私が、きょう、あなたに命じる主のすべての命令を守り行うなら、あなたの神、【主】は、地のすべての国々の上にあなたを高くあげられよう。

*【主】への従順に対する報酬が、異邦人諸国の上に立つということである。

*このような従順は、イスラエルの民族的回心が起こってから実現するものである。

申 28：13

28:13 私が、きょう、あなたに命じるあなたの神、【主】の命令にあなたが聞き従い、守り行いうなら、【主】はあなたをかしらとならせ、尾とはならせない。ただ上におらせ、下へ

は下されない。

＊再び、従順への報酬が語られる。

イザ 14：1～2

14:1 まことに、【主】はヤコブをあわれみ、再びイスラエルを選び、彼らを自分たちの土地にいてこさせる。在留異国人も彼らに連なり、ヤコブの家に加わる。

14:2 国々の民は彼らを迎え、彼らの所に導き入れる。イスラエルの家は【主】の土地でこの異国人を奴隷、女奴隷として所有し、自分たちをとりこにした者をとりこにし、自分たちをしいたげた者を支配するようになる。

＊異邦人諸国がイスラエルを約束の地に導く。

＊異邦人はイスラエルによって所有され、イスラエルのしもべとなる。

＊イザ 49：22～23、61：6～7 参照

まとめ

＊指揮系統

- ・メシア→ダビデ→12 使徒→首長たち→さばきつかさと議官たち
- ・彼らが全イスラエルを統治する。
- ・イスラエルは、異邦人たちの頭として統治する。

IV. メシア的王国におけるイスラエル

＊メシア的王国におけるイスラエルというテーマは、旧約聖書の預言のピークである。

＊例外は、ヨナ、ナホム、ハバクク、マラキだけである。

＊ハバククとマラキは、再臨と大患難時代に言及している。

＊旧約聖書の預言は、霊的（比喩的）にではなく、字義通りに解釈すべきである。

A. イスラエルの最終的回復の 4 つの側面

1. イスラエルの国家的新生

(1) 土台：新しい契約

エレミヤ 31：31～34

31:31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らは

わたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——

31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしめる。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

31:34 そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

＊31 節：神がイスラエルと結ぶ契約である（イスラエルの家とユダの家）。

＊32 節：この契約は、シナイ契約とは異なる。

- ・シナイ契約は、神がイスラエルと結んだ5つの契約の中で唯一の条件付契約。
- ・イスラエルはこの契約に違反した。
- ・この契約は、律法を守る力までは提供していなかった。

＊33 節：新しい契約では、新生によって義なる生活を行うことが可能になる。

＊34 節：イスラエルは国家的新生を体験する。

- ・千年王国においては、未信者のユダヤ人は存在しない。

(2) 預言の進展

イザ 29：22～24

＊ヤコブに対して約束が与えられている。

＊イスラエルの国家的新生が成就した時、ヤコブは恥を見ることがなくなる。

イザ 30：18～22

＊大患難時代の裁きの結果、イスラエルはメシアを信じる信仰に導かれる。

イザ 44：1～5

＊神がイスラエルを選んだが、彼らはまだ神が望むような器になっていない。

＊しかし、イスラエルに聖霊が注がれ、イスラエルは豊かな実を結ぶようになる。

イザ 45：17

＊イスラエルに永遠の救いが約束される。

エレ 24：7

＊神はイスラエルに、神を知る心を与える。

＊それによって、イスラエルは心を尽くして神に立ち返る。

エレ 50：19～20

＊新生したイスラエルには、罪は見いだせない。

エゼ 11：19～20

- *イスラエルには、新しい霊、肉の心が与えられる。
- *その結果、彼らは神の定めを行えるようになる。

エゼ 36：25～27

- *イスラエルの罪は清められる。
- *聖霊がイスラエルの心に内住し、彼らは神の命令に従って歩むようになる。

ホセ 1：10～2：1

- *神の裁きが続いて、イスラエルの新生を預言している。
- *裁きによってイスラエルの人口は激減するが、それが回復する。
- *一時的に「ロ・アミ」であったが、最後は「アミ」になる。

ホセ 14：4～8

- *イスラエルの背信は癒され、神の祝福が与えられる。
- *イスラエルは、偶像礼拝を止める。

ヨエ 2：28～32

- *聖霊が注がれると、イスラエルは国家的新生を体験する。

ミカ 7：18～20

- 7:18 あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。あなたは、咎を赦し、ご自分のものである残りの者のために、そむきの罪を見過ごされ、怒りをいつまでも持ち続けず、いつくしみを喜ばれるからです。
- 7:19 もう一度、私たちをあわれみ、私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ入れてください。
- 7:20 昔、私たちの先祖に誓われたように、真実をヤコブに、いつくしみをアブラハムに与えてください。
- *神は、イスラエルへの愛のゆえに、彼らの罪を赦される。
 - *アブラハム契約と、救いの側面を発展させた新しい契約が、その土台である。

ゼパ 3：9～13

- *ユダヤ人は、どこかの地に住んでいようとも、【主】の御名を呼び始める。
- *ユダヤ人の救いは、全人口に及ぶ。

ロマ 11：25～27

- 11:25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義

とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

11:26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。

11:27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」

*イスラエル人の一部がかたくなになったのは、異邦人の完成のなる時までである。

*その時、その時代に生きているイスラエル人は、すべて救われる。

2. イスラエルの帰還

(1) 土台：土地の契約

*申 29：1～30：20

*パレスチナ契約という用語が用いられてきた。

*今は、土地の契約という用語の方がよい。

①バル・コクバの乱（132～135年）の後、ハドリアヌスがパレスチナと命名。

②20世紀に入り、パレスチナという名称はアラブ人寄りの名となった。

*1節

・シナイ契約とは別の契約

・シナイ契約は一時的、条件付契約。土地の契約は無条件契約。

*2～9節

・40年間の荒野の旅のまとめ。

*10～13節

・約束の地に入る前に、これから起こることについて警告を発する。

*14～21節

・【主】に背を向けることへの警告が語られる。

*22～29節

・イスラエルの背信と、約束の地からの追放が預言される。

・イスラエルは、長期にわたって異邦人諸国で迫害に会う。

*30：1～10

・土地からの追放は永遠のものではない。

・イスラエルは【主】に立ち返り、新生を体験する。

・その後、世界各地からのイスラエル人の帰還が起こる。

・かつてイスラエルに下ったような裁きが、異邦人に下る。

・しかし、イスラエルには祝福だけが下る（8～9節）。

・イスラエルが完全に【主】に立ち返るからである（10節）。

*30：11～20

- ・土地の契約の締めくくりに、さらなる奨励、警告、約束が語られる。

(2) 預言の進展

*イザ 11：11～12：6

- ・最終的な帰還は、2つの帰還の内の2番目のものである。
- ・最初の帰還をバビロン捕囚からの帰還と考える者がいるが、そうではない。
- ・最初の帰還は、大患難時代の前に起こる。1948年以降に起こっている。
- ・最初の帰還は、裁きへの序曲である。

*11節 a

- ・最終的な帰還は、信仰のある帰還であり、千年王国の祝福への序曲である。

*11節 b

- ・中東諸国からの帰還

*12節

- ・世界の果てからの帰還

*13～14節

- ・イスラエルとユダの敵意は消え、エフライムのユダに対するねたみもなくなる。
- ・ユダの地に神殿が建てられたことが原因（詩 78：9～11、67～68）
- ・イスラエルとユダが一致したので、敵は敗北する。

*15～16節

- ・最終的な帰還には、奇跡が伴う。
- ・「エジプトの海の入江」とは、スエズ湾のことである。それが干上がる。
- ・ユーフラテス川は、7つの小さな川に分れる。
- ・出エジプトの時と同じような状況が出現する。

*12：1～6

- ・出エジプトの直後に、イスラエルは歌を歌った（出 15：1～18）。
- ・最終的な帰還の後、イスラエルは歌を歌う。

*1～3節（第1連）

- ・神が怒りを取り去ってくださったことへの感謝
- ・彼らは、救いは【主】にあることを認識した。

*4～6節（第2連）

- ・世界中に神の御業を知らせたいと願う。

*イザ 27：12～13

- ・最終的な帰還は、全面的なものである。
- ・中心的には、中東諸国からの帰還である。

- ・大患難時代の中でイスラエルは滅び、大半のユダヤ人が近隣諸国に避難する。
- ・それらの国々で、ユダヤ人たちは最も苦しむようになる。
- ・ユダヤ人たちは、エジプトやアッシリヤ（現在のイラク）から帰還する。
- ・ユダヤ人は世界の隅々から帰還するが、特に中東諸国からの帰還が多い。

*イザ 43：5～7

- 43:5 恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。わたしは東から、あなたの子孫を来させ、西から、あなたを集める。
- 43:6 わたしは、北に向かって『引き渡せ』と言い、南に向かって『引き止めるな』と言う。わたしの子らを遠くから来させ、わたしの娘らを地の果てから来させよ。
- 43:7 わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。

*5～6 節

- ・世界中からの帰還であることが、強調されている。

*7 節

- ・大規模な帰還であることが示されている。
- ・「創造し、形造り、造った」(created, formed, made)
- ・創 1～2 章で、この3つの動詞が同義語として使用されている。

*エレ 16：14～15

- 16:14 それゆえ、見よ、その日が来る。——【主】の御告げ——その日にはもはや、『イスラエルの子らをエジプトの国から上らせた【主】は生きておられる』とは言わないで、
- 16:15 ただ『イスラエルの子らを北の国や、彼らの散らされたすべての地方から上らせた【主】は生きておられる』と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。
- ・出エジプトは、イスラエルの歴史の頂点である。
 - ・最終的な帰還は、出エジプトに代わってイスラエルの歴史の頂点となる。

*エレ 23：3～4

- 23:3 しかし、わたしは、わたしの群れの残りの者を、わたしが追い散らしたすべての国から集め、もとの牧場に帰らせる。彼らは多くの子を生んでふえよう。
- 23:4 わたしは彼らの上に牧者たちを立て、彼らを牧させる。彼らは二度と恐れることなく、おののくことなく、失われることもない。——【主】の御告げ——
- ・世界中から帰還したユダヤ人たちは、増え広がる。
 - ・義なる指導者たちが立てられ、民を牧するようになる。

- ・エレ 23：7～8 には、再び出エジプトとの対比が描かれている。

* エレ 31：7～10

- ・新生の後、すべてのユダヤ人が帰還する。
- ・彼らを離散させた神が、彼らを帰還させる。

* エゼ 11：14～18

- ・イスラエルを離散させた神が、彼らを元の地に回復する。
- ・新生したイスラエルは、土地を清めることができる。
- ・エゼ 36：24 に、同じ預言がある。

* アモ 9：14～15

- ・イスラエルはその地を再建するために帰還する。
- ・イスラエルは再びその地から追放されることはない。

* ゼパ 3：18～20

- ・ゼパニヤのテーマは、裁きである。
- ・最後に、最終的な帰還の希望が預言される。
- ・裁きは罪の矯正のために下る。
- ・イスラエルが新生すると、最終的な帰還が起こる。
- ・イスラエルは、諸国の間で賞賛の的となる。

* ゼカ 10：8～12

- ・イスラエルの帰還を預言した旧約聖書最後の預言者
- ・羊飼いが羊に合図を送るように、神はイスラエルに合図を送り、集める。
- ・帰還は、贖いと新生の結果起こる。
- ・世界中からの帰還であるが、中東諸国に強調点がある。
- ・帰還したユダヤ人が、【主】から離れることはない。

* マタ 24：31

24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。

- ・背景に、イザ 27：12～13 がある。
- ・天使が、最終的な帰還の際に活躍する。
- ・地理的には、世界中からの帰還が強調されている。
- ・旧約聖書の預言の簡単なまとめになっている。

- ・要点は、最終的な帰還は再臨の後に起こることである。

＊マコ 13：27

- ・マタ 24：31 と並行箇所。申 30：3～4 が背景。
- ・地の果てから帰還するのは、生きているイスラエル人。
- ・天の果てから帰還するのは、復活したイスラエル人。

3. 土地の所有

- ①土地の境界線
- ②土地の生産力

(1) 土台：アブラハム契約

＊創 12：1～3

- 12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。
- 12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。
- 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」
- ・アブラハムにある土地が示される。それ以上の約束はない。

＊創 12：7

- 12:7 そのころ、【主】がアブラムに現れ、そして「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。
- ・アブラハムの子孫が、その土地を所有するという約束が与えられる。
 - ・この聖句から、アブラハムがその土地を所有することはないとの解釈も可能。

＊創 13：14～17

- 13:14 ロトがアブラムと別れて後、【主】はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。
- 13:15 わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。
- 13:16 わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。
- 13:17 立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与える

のだから。」

- ・ 14～15 節 アブラハムが見渡している土地は、アブラハムの所有物となる。
- ・ アブラハムとその子孫に、土地の約束が与えられた。
- ・ しかし、アブラハムが所有したのは、いくつかの井戸とひとつの洞窟であった。
- ・ 神の約束が成就するためには
 - ①アブラハムの復活と、②イスラエルによる土地の所有が必要となる。
- ・ アブラハムはその地を歩き回った。いつか彼の所有物となる（17 節）。
- ・ 創 15：12～21 で、約束の地の境界線が明らかになる。

＊創 15：12～16

- 15:12 日が沈みかかったころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして見よ。ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った。
- 15:13 そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。
- 15:14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。
- 15:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。
- 15:16 そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」
- ・ 契約締結の時、アブラハムの子孫の将来の歴史が啓示される。

＊創 15：17

- 15:17 さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。
- ・ 神は契約にサインし、封印された。

＊創 15：18～21

- 15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。
- 15:19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、
- 15:20 ヘテ人、ペリジ人、レファイム人、
- 15:21 エモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人を。」
- ・ 約束の地の境界線が示された。
 - ・ 北はユーフラテス川

・南はエジプトの川

「エジプトの川」(The River of Egypt) は、常に水の流れる川。

「エジプト川」(The Brook of Egypt) は、水なし川(ワジ)。

ヘブル語では、この2つは異なった言葉である。

前者は、ナイル川の支流で最も東にある(スエズ運河に並行している)。

後者は、ワジ・エル・アリシュである。

・預言書が預言する境界線

所有は、「エジプトの川」まで。

実際の入植は、「エジプト川」まで。

＊創 26：2～5

26:2 【主】はイサクに現れて仰せられた。「エジプトへは下るな。わたしがあなたに示す地に住みなさい。

26:3 あなたはこの地に、滞在しなさい。わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。それはわたしが、これらの国々をすべて、あなたとあなたの子孫に与えるからだ。こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすのだ。

26:4 そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。

26:5 これはアブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めと命令とおきてとおしえを守ったからである。」

・エジプトに下るなという命令が、イサクに与えられる。

・イサクとその子孫に、土地が約束される。

・イサクの将来の復活が預言されている。

・アブラハム契約は、イサクが継承した。

・イシュマエルやケトラの6人の息子たちではない。

＊創 28：13～15

28:13 そして、見よ。【主】が彼のかたわらに立っておられた。そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

- ・アブラハム契約は、エサウではなく、イサクが継承した。
- ・土地は、ヤコブとその子孫に約束された。
- ・ヤコブは復活し、土地を所有するようになる。
- ・ヤコブの子孫は、大いに増え広がる。
- ・ヤコブは約束の地を去ろうとしているが、神が彼をその地に連れ戻される。

(2) 預言の進展

＊律法と預言書の両方で、土地の所有というテーマが展開される。

＊レビ 26：40～45

- ・イスラエルの新生に続いて、アブラハム契約の土地の約束の部分は成就する。

＊申 30：5

- ・土地の所有の約束は、土地の契約の一部である。

＊イザ 27：12

- ・土地の境界線が示される。
- ・イスラエルは、北はユーフラテス川から、南はエジプト川に至るまで住みつく。

＊イザ 30：23～26

- ・土地の生産力の増加が強調される。
- ・月の光は太陽の光のようになる。
- ・太陽は7倍の光を放つ。
- ・肉体的病が癒される時である。

＊イザ 35：1～2

35:1 荒野と砂漠は楽しみ、荒地は喜び、サフランのように花を咲かせる。

35:2 盛んに花を咲かせ、喜び喜んで歌う。レバノンの栄光と、カルメルやシャロンの威光をこれに賜るので、彼らは【主】の栄光、私たちの神の威光を見る。

- ・イスラエルの荒野は大きく変化する。

＊イザ 65：21～24

- ・土地の生産力は大いに増す。
- ・イスラエルは、自らの労働の実を十分に得ることができる。
- ・彼らには、長寿が約束されている。

＊エレ 31：1～6

- ・イスラエルに対する永遠の愛のゆえに、神はイスラエルを回復される。
- ・土地は豊かに農産物を産出するようになる。
- ・エフライムの山々で見張る者たちは、エルサレムでの礼拝を呼びかける。

*エレ 31：11～14

- ・贖われたイスラエルは、約束の地に帰還する。
- ・土地は豊かに作物を産出し、住民を喜ばせる。

*エゼ 20：42～44

- ・アブラハム契約のゆえに、神はイスラエルを約束の地に連れ戻される。
- ・イスラエルは過去の罪から離れ、神にのみ仕えるようになる。

*エゼ 28：25～26

- ・新生したイスラエルは帰還し、アブラハム契約に基づいて土地を所有する。
- ・約束の地での安全な生活が強調されている。

*エゼ 34：25～31

- ・ここでも、安全な生活が強調されている。
- ・野獣がいなくなるので、安心して住めるようになる。
- ・雨が、必要な時に、必要なだけ降る。
- ・イスラエルは、過去の敵からも自由になる。
- ・イスラエルは、神の特別な所有物となる。

*エゼ 36：8～15

- ・荒廃した土地が耕され、人口が増加する。
- ・土地の生産性が大いに増す。

*エゼ 36：28～38

- ・イスラエルは、新生の結果、再び土地を所有するようになる。
- ・イスラエルのそしりは取り除かれ、イスラエルは自らの罪を憎むようになる。
- ・神の栄光が諸国の間であがめられるために、このことが起こる。
- ・イスラエルの人口は増加し、荒廃した地は再建される。

*ヨエ 2：18～27

- ・【主】はご自分の地をねたむほど愛しておられる。
- ・その結果、この地は生産力を大いに増す。
- ・外敵の侵入からも守られる。
- ・雨は必要な時に、必要な量が降り、大量の食物が貯蔵されるようになる。
- ・イスラエルは神と特別な関係に置かれ、永遠に恥を見ることがない。

*ヨエ 3：18

- ・土地には豊かな水が与えられる。

*アモ 9：13

- ・大いに増した生産力の預言

まとめ

- ・イスラエルは初めて、約束の地のすべてを所有するようになる。
- ・土地には豊かな水が与えられ、その生産力が大いに増す。
- ・これらすべては、アブラハム契約のゆえに起こる。

4. ダビデの王座の回復

(1) 土台：ダビデ契約

＊2 サム 7：11b～16

- 7:11 さらに【主】はあなたに告げる。『【主】はあなたのために一つの家を造る。』
- 7:12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。
- 7:13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。
- 7:14 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。もし彼が罪を犯すときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。
- 7:15 しかし、わたしは、あなたの前からサウルを取り除いて、わたしの恵みをサウルから取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。
- 7:16 あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。』
- ・ 11 節 b ダビデは王朝の頭となる。
 - ・ 12 節 ダビデの死後、ソロモンが王座を継承し、王国を確立する。
 - ・ 13 節 ソロモンが神殿を建設する。
神は王座を永遠に立てる（ソロモンではない）。
 - ・ 14～15 節 ソロモンは罪を犯し、神は彼を罰する。
しかし、サウルの時のようにソロモンから恵みを取り去ることはない。
 - ・ 16 節 ダビデ王朝、ダビデの王座、ダビデ王国は永遠に立つ。

＊1 歴 17：10b～14

- 17:12 わたしはあなたに告げる。『【主】があなたのために一つの家を建てる。』
- 17:11 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちのもとに行くようになるなら、わたしは、あなたの息子の中から、あなたの世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。
- 17:12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしはその王座をとこしえまでも堅く立てる。

- 17:13 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。わたしはわたしの恵みをあなたの先にいた者から取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。
- 17:14 わたしは、彼をわたしの家とわたしの王国の中に、とこしえまでも立たせる。彼の王座は、とこしえまでも堅く立つ。」
- ・ 10 節 b ダビデに王朝が約束された。
 - ・ 11 節 彼の死後、その息子たちのひとりから出る子孫が王国に立てられる。
2 サムの箇所は、ソロモンに関する預言である。
1 歴の箇所は、イエスに関する預言（ダビデの息子ナタンの子孫）
 - ・ 12 節 メシアも神殿を建てる（千年王国の神殿）。その王座は永遠に立つ。
 - ・ 13 節 神の恵みが取り去られることはない。
メシアは罪を犯すことがないので、罪と裁きへの言及はない。
 - ・ 14 節 メシア自身も永遠に立てられる。

まとめ

- ・ ダビデ契約は4つのことを約束している。
①永遠の王朝、②永遠の王国、③永遠の王座、④永遠の人物
- ・ メシアは3つの職責を持っている。
①預言者、②祭司、③王
- ・ 初臨の時は、預言者として活動した。
- ・ 死と復活以降、祭司として活動している。
- ・ 再臨以降は、王として活動する。

(2) 預言の進展

*イザ9:6~7

- 9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。
- 9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。
- ・ 6 節 a ダビデの家系に属するひとりの男子が誕生する。主権はその肩にある。
 - ・ 6 節 b ここに記された名前は、神の御名である。
①王朝、②王国、③王座は、この神人によって保証されている。
 - ・ 7 節 メシア的王国の確立。
その特徴は、「さばきと正義によって…とこしえまで」である。

【主】の熱心が、その成就を保証している。

*イザ 16：5

16:5 一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかに行う者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。

- ・再度イザヤは、神の忠実な愛のゆえに、王座が立てられると預言する。
- ・王座に座るのは、ダビデの家系の者で、その特徴は真実である。
- ・彼は、正義を実行する裁き主であり、王である。

*エレ 23：5～6

23:5 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起す。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う。

23:6 その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、『【主】は私たちの正義』と呼ばれよう。

- ・ダビデの子孫が王座に着く。
- ・「その王の名は、『【主】は私たちの正義』」とある。この王は神人である。
- ・その統治の特徴は、知恵、公義、正義である。

*エレ 33：14～17

33:14 「見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみのことばを成就する。

33:15 その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を芽ばえさせる。彼はこの国に公義と正義を行う。

33:16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの町は、『【主】は私たちの正義』と名づけられる。」

33:17 まことに【主】はこう仰せられる。「ダビデには、イスラエルの家の王座に着く人が絶えることはない。

- ・14節 ダビデ契約の成就が約束される。
- ・15～16節 エレ 23：5～6 の中心点が再確認される。
- ・17節 ダビデ王朝が絶えることは決してない。

*ゼカ 14：9

- ・メシアの王座はエルサレムにあるが、その統治は全世界に及ぶ。
- ・全人類が、メシアは世界の王であり、神は唯一であることを認める。

*詩 89：3～4

- ・神は、ご自身がダビデと永遠の契約を結んだと言われる。
- ・王朝と王座の永遠性が宣言される（29 節）。
- ・この契約が永遠のものであることの保証は、神の性質にある（34～37 節）。

*エレ 33：17～26

- ・ダビデ契約は永遠であり、破棄されることはない。
- ・それゆえ、ダビデ王朝が絶えることは決してない。
- ・ダビデの王座の再建は、神が契約を守るお方であることの証明となる。
- ・神はイスラエルを見捨てていない。アブラハム契約もダビデ契約も成就する。

*アモ 9：11～12

- ・御国が建設されたなら、ダビデ王朝が再建される。
- ・ダビデの王座は、かつての栄光を取り戻す。
- ・再建された王座の権威は、異邦人諸国にまで及ぶ。

*ルカ 1：32～33

1:32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

- ・マリヤの子は、ダビデの王座に着く。
- ・永遠の王朝、王座、王国が保証されている。
- ・この子は、永遠のお方、神の子である。

まとめ

- ・イスラエルは、4 つの無条件契約の成就を見るようになる。

B. イスラエルの最終的回復に関する他の特徴

1. 国家としての再統一

*エレ 3：18

3:18 その日、ユダの家はイスラエルの家といっしょになり、彼らはともどもに、北の国から、わたしが彼らの先祖に継がせた国に帰って来る。」

*エゼ 37：1～14 枯れ骨の谷の幻

- ・1～6 節 エゼキエルは、枯れ骨に向かって預言するように命じられる。

- ・7～10 節 彼が預言すると、骨と骨がつながり、息が吹いてくると生き返った。
- ・11 節 これらの骨は、イスラエルの全家である。
- ・12～13 節 神は彼らをイスラエルの地に帰還させる。彼らはそこを所有する。
- ・14 節 その時イスラエルは、神との正しい関係に入れられる。

＊エゼ 37：15～23

- 37:15 次のような【主】のことばが私にあった。
- 37:16 「人の子よ。一本の杖を取り、その上に、『ユダと、それにつくイスラエル人のために』と書きしるせ。もう一本の杖を取り、その上に、『エフライムの杖、ヨセフと、それにつくイスラエルの全家のために』と書きしるせ。
- 37:17 その両方をつなぎ、一本の杖とし、あなたの手の中でこれを一つとせよ。
- 37:18 あなたの民の者たちがあなたに向かって、『これはどういう意味か、私たちに説明してくださいませんか』と言うとき、
- 37:19 彼らに言え。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、エフライムの手にあるヨセフの杖と、それにつくイスラエルの諸部族とを取り、それらをユダの杖に合わせ、一本の杖とし、わたしの手の中で一つとする。
- 37:20 あなたが書きしるした杖を、彼らの見ている前であなたの手に取り、
- 37:21 彼らに言え。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは、イスラエル人を、その行っていた諸国の民の間から連れ出し、彼らを四方から集め、彼らの地に連れて行く。
- 37:22 わたしが彼らを、その地、イスラエルの山々で、一つの国とするとき、ひとりの王が彼ら全体の王となる。彼らはもはや二つの国とはならず、もはや決して二つの王国に分かれない。
- 37:23 彼らは二度と、その偶像や忌まわしいもの、またあらゆるそむきの罪によって身を汚さない。わたしは、彼らがかつて罪を犯したその滞在地から彼らを救い、彼らをきよめる。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- ・15～17 節 エゼキエルは2本の杖を取るように命じられる。
片方に「ユダ」、もう片方に「ヨセフ」と書き、それを1本の杖とする。
 - ・18～20 節 その解釈は、2つの王国はいつか1つになるということ。
 - ・21 節 彼らの帰還が起こると、それは1つの民としての帰還となる。
 - ・22 節 ひとりの王が、ひとつの王国で彼らを統治する。
 - ・23 節 彼らはその罪から清められる。

2. 異邦人の注目的

＊イザ 14：1～2

- ・異邦人たちはイスラエルに加わり、イスラエルの神を礼拝するようになる。
- ・イスラエルの帰還は、天使だけでなく、異邦人の助けによって起こる。

- ・異邦人はイスラエルの僕となる。

*イザ 49：22～23

- ・イスラエルの帰還は、異邦人の助けによって起こる。
- ・異邦人は、イスラエルに仕えるようになる。

*イザ 60：1～3

- ・彼らが注目の的になる理由は、その上にシャカイナグローリーがあるから。

*イザ 61：4～9

- ・帰還したイスラエルは、その地の荒廃した町々を再建する。
- ・異邦人は、イスラエルのしもべとなる。
- ・イスラエルは異邦人にみことばを教え、異邦人から富を受ける。
- ・イスラエルは再び異邦人から辱めを受けることはない。
- ・彼らは、2 倍の祝福と富を受ける。
- ・これは新しい契約の結果である。
- ・異邦人は、イスラエルが神の特別の目的のために選ばれたことを認める。

*ミカ 7：14～17

- ・イスラエルは約束の地に帰還し、そこを所有するようになる。
- ・この帰還には奇跡が伴う。
- ・異邦人はこれを見て、イスラエルに畏怖の念を抱くようになる。
- ・ユダヤ人たちは、イスラエルの神に従う。

*ゼパ 3：20

*ゼカ 8：23

- 8:23 万軍の【主】はこう仰せられる。「その日には、外国語を話すあらゆる民のうちの十人が、ひとりのユダヤ人のすそを堅くつかみ、『私たちもあなたがたといっしょに行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたからだ』と言う。」
- ・異邦人は迫害のためではなく、【主】の礼拝のためにユダヤ人のすそをつかむ。
 - ・ユダヤ人はみことばに仕える者としての尊敬を受けるようになる。

3. 正義、聖潔、平和、安全、楽しみ、そして喜び

*イザ 32：16～20

- ・正義と平和

*イザ 35：5～10

- ・聖潔、平和、安全、楽しみ

*イザ 51：3

- ・楽しみ、喜び

＊イザ 55：12～13

- ・自然界と人間界における楽しみと平和

＊イザ 61：10～11

- ・正義の強調

C. 【主】の家の山

＊再臨の時に地形が激変し、高い山が現れる。世界一高い山。

＊この山の上に、千年王国の神殿と千年王国のエルサレムが立つ。

＊イザ 2：2～4

2:2 終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。

2:3 多くの民が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

2:4 主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。

- ・2節 a 【主】のイエスが立つ山は、最も高い山である。

- ・2b～3節 a この山から千年王国の律法が出て来る。

異邦人諸国はその山にやってくる。

- ・3b～4節 その結果、世界的な平和が到来する。

＊イザ 27：13

27:13 その日、大きな角笛が鳴り渡り、アッシリヤの地に失われていた者や、エジプトの地に散らされていた者たちが来て、エルサレムの聖なる山で、【主】を礼拝する。

- ・この高い山はユダヤ人による礼拝の中心地となる。

＊イザ 56：6～8

56:6 また、【主】に連なって主に仕え、【主】の名を愛して、そのしもべとなった外国人がみな、安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を強く保つなら、

56:7 わたしは彼らを、わたしの聖なる山に連れて行き、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のいけにえやその他のいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。

56:8 ——イスラエルの散らされた者たちを集める神である主の御告げ——わたしは、すでに集められた者たちに、さらに集めて加えよう。」

- ・この山は、ユダヤ人にとっても異邦人にとっても、礼拝の中心地となる。

*イザ 66：20

66:20 彼らは、すべての国々から、あなたがたの同胞をみな、【主】への贈り物として、馬、車、かで、騾馬、らくだに乗せて、わたしの聖なる山、エルサレムに連れて来る」と【主】は仰せられる。「それはちょうど、イスラエル人がささげ物をきよい器に入れて【主】の宮に携えて来るのと同じである。

・異邦人が、ユダヤ人をこの山に連れて来る役割を果たす。

*ミカ 4：1～2

4:1 終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、国々の民はそこに流れて来る。

4:2 多くの異邦の民が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。

・【主】の家の山は、他の山々よりも高く立つ。

・【主】のみおしえがこの山から出て来る。

*エゼ 17：22～24

17:22 神である主はこう仰せられる。「わたしは、高い杉のこずえを取り、そのうちから、柔らかい若枝の先を摘み取り、わたしはみずからそれを、高くてりっぱな山に植える。

17:23 わたしがそれをイスラエルの高い山に植えると、それは枝を伸ばし、実を結び、みごとな杉の木となり、その下にはあらゆる種類の鳥が住みつき、その枝の陰に宿る。

17:24 このとき、野のすべての木は、【主】であるわたしが、高い木を低くし、低い木を高くし、緑の木を枯らし、枯れ木に芽を出させることを知るようになる。【主】であるわたしが語り、わたしが行う。」

・イスラエルの高い山は、良好な耕作地となる。

*エゼ 20：40～41

20:40 わたしの聖なる山、イスラエルの高い山の上で、——神である主の御告げ——その所で、この地にいるイスラエルの全家はみな、わたしに仕えるからだ。その所で、わたしは彼らを喜んで受け入れ、その所で、あなたがたのすべての聖なる物とともに、あなたがたの奉納物と最上のささげ物を求める。

20:41 わたしがあなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散らされている国々からあなたがたを集めるとき、わたしは、あなたがたをなだめのかおりとして喜んで受け入れる。わたしは、諸国の民が見ている前で、あなたがたのうちに、わたしの聖なることを示す。

・この山は、千年王国において【主】を礼拝する中心地となる。

・イスラエルの新生と帰還の後に、このことが起こる。

*エゼ 40：1～4

- 40:1 私たちが捕囚となって二十五年目の年の初め、その月の十日、町が占領されてから十四年目のちょうどその日、【主】の御手が私の上であり、私をそこへ連れて行った。
- 40:2 すなわち、神々しい幻のうちに、私はイスラエルの地へ連れて行かれ、非常に高い山の上に降ろされた。その南のほうに町が建てられているようであった。
- 40:3 主が私をそこに連れて行かれると、そこに、ひとりの人がいた。その姿は青銅でできているようであり、その手に麻のひもと測りざおとを持って門のところに立っていた。
- 40:4 その人は私に話しかけた。「人の子よ。あなたの目で見、耳で聞き、わたしがあなたに見せるすべての事を心に留めよ。わたしがあなたを連れて来たのは、あなたにこれを見せるためだ。あなたが見ることをみな、イスラエルの家に告げよ。」
- ・1 節 捕囚の 25 年目に、千年王国におけるイスラエルの幻が与えられた。
 - ・2 節 イザヤやミカ同様、エゼキエルは山の南の稜線に再建された町を見た。
 - ・3～4 節 イスラエルの家に告げるべき幻が示される。

＊エゼ 45：1～8 を見てみる。

＊エゼ 45：1

- 45:1 あなたがたがその地を相続地として、くじで分けるとき、その地の聖なる区域を奉納地として【主】にささげなければならない。その長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビト。その周囲の全域は聖なる地である。
- ・この山は聖なる儀式に用いられるので、「聖なる奉納」と呼ばれる。
 - ・神殿とエルサレムはこの山の上に立つ。
 - ・山上の平地は 1 辺が 2 万 5 千リード（50 マイル、約 80 キロ）の正方形
 - ・この平地は、3 区域に区分される。

＊エゼ 45：2～4（北の地区の描写）

- 45:2 このうち、縦横五百キュビトの正方形を聖所に当て、その回りを五十キュビトの空地にしなければならない。
- 45:3 先に測った区域から、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトを測れ。そして、その中に聖なる至聖所があるようにせよ。
- 45:4 これは国の聖なる所である。これは、聖所で仕え、主に近づいて仕える祭司たちのものとしなければならない。ここを彼らの家の敷地とし、聖所のために聖別しなければならない。
- ・北の地区は 1 万リード（20 マイル、32 キロ）×2 万 5 千リード（50 マイル）。
 - ・その中央に千年王国の神殿がある。
 - ・神殿は、縦横 5 百リード（1 マイル、1.6 キロ）。
 - ・それ以外の北の地域は、祭司たちのものとなる。

＊エゼ 45：5（中央の地区の描写）

- 45:5 また、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトの地は、宮で奉仕をするレビ人のものとし、二十の部屋を彼らの所有としなければならない。

- ・中央の地区も、1万リード（20マイル）×2万5千リード（50マイル）の広さ。
- ・レビ族の所有地となる。

＊エゼ 45：6～8（南の地区の描写）

- 45:6 聖なる奉納地に沿って、幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトを町の所有とし、これをイスラエルの全家のものとする。
- 45:7 君主の土地は、聖なる奉納地と町の所有地との両側にあり、聖なる奉納地と町の所有地に面し、西側は西のほうへ、東側は東のほうへ延びている。その長さは一つの部族の割り当て地と同じで、この国の西の境界線から東の境界線にまで及んでいる。
- 45:8 これがイスラエルの中の彼の所有地である。わたしの君主たちは、二度とわたしの民をしいたげることなく、この地は部族ごとに、イスラエルの家に与えられる。
- ・南の地区は、5千リード（10マイル）×2万5千リード（50マイル）。
 - ・中央にエルサレムがある。10マイル×10マイル。
 - ・両側に耕作地がある。10マイル×20マイル。
 - ・君主（復活したダビデ）がそれを管理し、部族に配分する。

＊エゼ 48：8～20 を見てみる。

＊エゼ 48：8

- 48:8 ユダの地域に接して、東側から西側までが、あなたがたのささげる奉納地となる。その幅は二万五千キュビト、その長さは東側から西側にかけて部族の割り当て地の一つと同じである。聖所はその中央にある。
- ・高い山の面積は、2万5千リード（50マイル）×2万5千リード（50マイル）。

＊エゼ 48：9～12（北の地区）

- 48:9 あなたがたが【主】にささげる奉納地は、長さ二万五千キュビト、幅二万キュビトである。
- 48:10 祭司たちへの聖なる奉納地は次のとおりである。北側は二万五千キュビト、西側は一万キュビトの幅、東側は一万キュビトの幅、南側は二万五千キュビトの長さである。【主】の聖所はその中央にある。
- 48:11 この区域はツァドクの子孫の聖別された祭司たちのものである。彼らは、イスラエル人が迷い出たときいっしょに迷い出たレビ人とは異なり、わたしへの任務を果たしている。
- 48:12 彼らの地域はレビの部族の地域に接し、奉納地のうちでも最も聖なる地である。
- ・奉納地は、1万リード（20マイル）×2万5千リード（50マイル）である。
（9節は、新共同訳では「幅は1万アンマ」である）
 - ・中央に神殿がある。その地区には祭司たちが住む（10節）。
 - ・神殿の区域には、ツァドクの子孫たちが住む（11～12節）。

＊エゼ 48：13～14（中央の地区）

- 48:13 レビ人のものは祭司の領地に沿っており、長さ二万五千アンマ、幅一万アンマである。両者を合わせた全体の長さは二万五千アンマ、幅は二万アンマである。

48:14 その一部でも売却したり、交換したりしてはならない。この最良の土地を譲り渡してはならない。それは主に属する聖なるものだからである。(新共同訳)

- ・ここも1万リード(20マイル)×2万5千リード(50マイル)である。
- ・ツアドク以外のレビ人たちが住む。

＊エゼ 48：15～19 (南の地区)

48:15 幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトの残りの地所は、町の一般用であり、住まいと放牧地のためである。町はその中央に建てられなければならない。

48:16 その大きさは次のとおりである。北側は四千五百キュビト、南側は四千五百キュビト、東側は四千五百キュビト、西側は四千五百キュビトである。

48:17 また、町の放牧地は、北へ二百五十キュビト、南へ二百五十キュビト、東へ二百五十キュビト、西へ二百五十キュビトである。

48:18 聖なる奉納地に接する残りの地所の長さは、東へ一万キュビト、西へ一万キュビトである。それは聖なる奉納地に接している。そこから収穫した物は町の働き人の食物となる。

48:19 その町の働き人は、イスラエルの全部族から出て、これを耕す。

- ・ここも5千リード(10マイル)×2万5千リード(50マイル)である。
- ・中央に千年王国のエルサレムが建設される(15～16節)。
- ・エルサレムは縦横5千リード(10マイル)である(17節)。
- ・町の両側に5千リード(10マイル)×1万リード(20マイル)の土地がある。
- ・そこは、エルサレムの住民の食物を育てる耕作地となる(18節)。
- ・エルサレムは特定の部族に属せず、すべての部族の人々が来て住む(19節)。

＊エゼ 48：20

48:20 奉納地の全体は二万五千キュビト四方であり、あなたがたは、聖なる奉納地と町の所有地とをささげることになる。

- ・奉納地は、縦横2万5千リード(50マイル)である。
- ・そこに神殿とエルサレムが立つ。

D. 千年王国の神殿：エゼ 40：5～43：27

＊エゼ 37：26～28

37:26 わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らの住居を定め、彼らを増し加える。わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く。

37:27 わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

37:28 わたしの聖所が永遠に彼らの真ん中に置かれるとき、諸国民は、わたしがイスラエルを聖別する主であることを知るようになる。」

- ・イスラエルの真ん中に【主】の聖所が置かれる。

＊エゼ 40：5～43：27 に詳細な記述がある。

①エゼ 40：5～27 は、外庭に関する記述。

- ・外壁のサイズを測る（5 節）。
- ・外庭の描写が続く（6～27 節）。
- ・東の門にある 30 の部屋（6～16 節）
- ・敷石（17～19 節）
- ・北の門（20～23 節）
- ・南の門（24～27 節）

②エゼ 40：28～47 は、内庭に関する記述。

- ・内庭にある門（28～37 節）
 - 南の門のエリア（28～31 節）
 - 東の門のエリア（32～34 節）
 - 北の門のエリア（35～37 節）
- ・いけにえをほふるための台（38～43 節）
- ・祭司たちのための部屋（44～46 節）
- ・祭壇（47 節）

③エゼ 40：48～41：26 は、千年王国の神殿そのものに関する記述。

- ・玄関の間（48～49 節）
- ・壁柱（41：1）
- ・聖所への入り口（2 節）
- ・至聖所（3～4 節）
- ・神殿の壁と脇間（5～11 節）
- ・別の建物（12～14 節）
- ・神殿の内装（15～20 節）
- ・神殿の外装（21～26 節）
- ・この神殿はそれ以前のものよりも大きいことが分かる（縦横約 1 マイル）。
- ・この神殿が建つためには、新しい【主】の家の山の出現が必要となる。

④エゼ 42：1～14 は、外庭の部屋に関する記述。

⑤エゼ 42：15～20 は、外壁に関する記述。

⑥エゼ 43：1～9 は、シャカイナグローリーの帰還に関する記述。

- ・ソロモンの神殿に宿ったシャカイナグローリーの帰還（1～5 節）
- ・シャカイナグローリーは、去った方向から戻ってくる。
- ・千年王国の神殿の正統性が認定される。
- ・シャカイナグローリーは、二度とイスラエルから去ることはない。

⑦エゼ 43：10～12 は、イスラエルの罪を指摘せよとの命令。

- ・イスラエルは、自らの罪を恥じるべきである。

⑧エゼ 43：13～27 は、祭壇に関する記述。

- ・祭壇のサイズ（13～17 節）
- ・祭壇の聖別（18～27 節）

E. 千年王国における祭司と祭儀制度：エゼ 44：1～46：24

- *モーセの律法との類似点と、相違点がある。
- *これはモーセの律法の再執行ではない。
- *モーセの律法は、メシアの死とともに廃棄された。
- *千年王国においては、御国の律法が執行される。

*7つの部分がある。

①エゼ 44：1～3 は、東向きの外の門に関する記述である。

- ・東の門は閉じたままである（1 節）。
- ・シャカイナグローリーがそこから帰還したから（2 節）。43：1～9 参照。
- ・シャカイナグローリーは二度と去ることはない。
- ・君主の権威と働きについて。復活したダビデである。
- ・彼は門の前で食する（3 節 a）。
- ・そこには玄関の間を通して入る（3 節 b）。
- ・玄関の間を通るのは、外庭を経由して、である。
- ・今日のエルサレムにある東の門（黄金門）とは、なんの関係もない。

②エゼ 44：4～8 は、シャカイナグローリーに関する別の記述である。

- ・イスラエルの罪を指摘している。

③エゼ 44：9～14 は、レビ人の任務に関する記述である。

④エゼ 44：15～31 は、ツアドクの子孫に関する記述である。

⑤エゼ 45：1～8 は、聖なる奉納地に関する記述である。

⑥エゼ 45：9～46：18 は、ダビデ（君主）の責務に関する記述である。

- ・正しいはかりが使用される（45：9～12）。
- ・ささげ物に関する律法の執行（45：13～46：15）
 - 一般的な規定（13～17 節）
 - 新年のささげ物（18～20 節）
 - 過越の祭りのささげ物（21～24 節）
 - 仮庵の祭りのささげ物（25 節）
 - 安息日のささげ物（46：1～5）
 - 東の内門。安息日には門が開かれる。
 - 新月のささげ物（6～8 節）

特別な例祭でのささげ物（9～12 節）

日々のささげ物（13～15 節）

・君主に与えられている特権（16～18 節）

⑦エゼ 46：19～24 は、ささげ物を煮る際の規定に関する記述である。

＊エレ 3：16

3:16 その日、あなたがたが国中にふえて多くなるとき、——【主】の御告げ——彼らはもう、【主】の契約の箱について何も言わず、心にも留めず、思い出しもせず、調べもせず、再び作ろうともしない。

- ・千年王国の神殿には、契約の箱はない。契約の箱は不要である。
- ・神で自身（メシア）がエルサレムに住み、そこから統治される。
- ・契約の箱には、律法を記した石の板 2 枚が入っていた。
- ・しかし、モーセの律法はすでに廃棄されている。

まとめ

- ・千年王国での祭儀法は、モーセの律法の復活ではない。
- ・それは新しい要素と古い要素の両方を含む。
- ・モーセの律法とは全く異なった目的のために施行されるものである。

F. 千年王国の川：エゼ 47：1～12

＊ヨエ 3：18

3:18 その日、山々には甘いぶどう酒がしたたり、丘々には乳が流れ、ユダのすべての谷川には水が流れ、【主】の宮から泉がわきいで、シティムの溪流を潤す。

- ・川は神殿から流れ出す。

＊エゼ 47：1～2

47:1 彼は私を神殿の入口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。

47:2 ついで、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外の門に行かせた。見ると、水は右側から流れ出ていた。

- ・神殿の敷居の下から東に
- ・祭壇の南、神殿の右側の下から
- ・東の門を通して、死海まで。

＊ゼカ 14：8

14:8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。

- ・水は東に流れ、次に南に進み、エルサレムの町に入る。
- ・そこで2つの支流となり、西の支流は地中海に、東の支流は死海に流れ込む。
- ・支流の水は、作物を育てるために用いられる。

＊エゼ 47：8～10

- 47:8 彼は私に言った。「この水は東の地域に流れ、アラバに下り、海に入る。海に注ぎ込むとこの水は良くなる。
- 47:9 この川が流れて行く所はどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水が入ると、その水が良くなるからである。この川が入る所では、すべてのものが生きる。
- 47:10 漁師たちはそのほとりに住みつき、エン・ゲディからエン・エグライムまで網を引く場所となる。その魚は大海の魚のように種類も数も非常に多くなる。
- ・死海の状態が変化する。
 - ・死海に多くの魚が住むようになる。

G. 千年王国のイスラエル：エゼ 47：13～48：29

＊イスラエルは初めて、約束の地の全地域を所有するようになる。

＊ヨシュア記に記された部族ごとの領地とは異なる。

①エゼ 47：13～14

- ・神の契約に基づく約束がすべて成就する。

②エゼ 47：15～20 は、領地の境界線に関する記述。

- ・北の境界線は、地中海から始まり、レバノンのほとんどとシリアの一部を含む。
最後はユーフラテス川に至る（15～17 節）。
- ・東の境界線は、ユーフラテス川を南に下り、ゴラン高原とシリアの一部を含む。
さらに南に下り、ヨルダン川がガリラヤ湖から出る辺りに至る。
さらに、ヨルダン川が死海に注ぐ辺りまで南下する（18 節）。
- ・南の境界線は、死海の南端から始まり、ネゲブ、シナイ山半島の一部を含む。
さらにエジプト川（ワジ・エル・アリシュ）に沿って地中海へ（19 節）。
- ・西の境界線は、地中海である（20 節）。

③エゼ 48：1～7 は、北の地区の分割に関する記述（7 部族）。

- ・ダン（1 節）、アシェル（2 節）、ナフタリ（3 節）、マナセ（4 節）
- ・エフライム（5 節）、ルベン（6 節）、ユダ（7 節）
- ・東の境界線と西の境界線は、平行に走る。

④エゼ 48：8～22 は、聖なる奉納地に関する記述。

- ・【主】の家の山の位置が示される。

- ・ユダの領地の南に位置する。
- ・北の 7 部族と南の 5 部族を分割する場となる。

⑤エゼ 48：23～29

- ・南の 5 部族の分布は、北から順に以下ようになる。
- ・ベニヤミン（23 節）、シメオン（24 節）、イッサカル（25 節）
- ・ゼブルン（26 節）、ガド（27 節）
- ・南の境界線（28～29 節）

H. 千年王国のエルサレム：エゼ 48：30～35

*エゼキエルは、千年王国のエルサレムについて他の預言者にはない情報を伝える。

*町も門の名はすべて、12 部族から取られている。

*30～31 節

- ・北側は 10 マイルある。
- ・北側の 3 つの門は、ルベンの門、ユダの門、レビの門。

*32 節

- ・東側も 10 マイルある。
- ・ヨセフの門、ベニヤミンの門、ダンの門。

*33 節

- ・南側も 10 マイルある。
- ・シメオンの門、イッサカルの門、ゼブルンの門。

*34 節

- ・西側も 10 マイルある。
- ・ガドの門、アシェルの門、ナフタリの門。

*35 節 a

- ・エルサレムは一辺が 10 マイルの正方形。

*35 節 b

- ・町の名は、「主はここにおられる」と呼ばれる。
- ・メシア（神人）の統治により、エルサレム（平和の町）という意味が成就する。
- ・エレ 33：16 では、「【主】は私たちの正義」とある。

*詩 48

- ・イスラエルの神が臨在される（1～3 節）。
- ・町は喜ぶ（11 節）。
- ・住民は町の美しさに目を留めるように勧められる（12～13 節）。

*詩 87：1～7

- ・エルサレムは「神の町」。

＊詩 122：1～9

- ・ダビデの王座が回復された千年王国のエルサレムの美しさが歌われている。

＊詩 147：2～3

- ・イスラエルが回復される時、エルサレムは建てられる。
- ・神がエルサレムを建てるので、そこは力と平和に満ちる（12～14 節）。
- ・御国の教えが、エルサレムから流れ出る（19～20 節）。

＊イザ 1：26～27

- ・聖さと公正と正義が特徴となる。

＊イザ 4：3～6

- ・過去の罪はすべて取り除かれ、聖さがエルサレムの特徴となる。
- ・シオンの山をシャカイナグローリーが覆う。

＊イザ 14：32

- ・主の民の悩む者たちは、この町に逃げ込む。

＊イザ 33：20～24

- ・メシアがそこに住むので、そこは静かで安らかな町となる。
- ・多くの川が流れるが、戦いのための船は通らない。
- ・メシアが、さばき主、立法者、王、救い主として統治される。

＊イザ 52：1～2

- ・エルサレムが聖なる町、自由な町であることが強調されている。
- ・汚れた者はそこに入れない。
- ・異邦人の時は終わったので、エルサレムは二度と捕囚になることはない。

＊イザ 52：7～10

- ・良い知らせ：メシアがシオンで統治され、ユダヤ人がそこに帰還する。
- ・神がエルサレムを贖われるので、エルサレムは再び建てられる。

＊イザ 60：10～14

- ・エルサレムは世界中の異邦人諸国の関心の的となる。
- ・イスラエルの僕となる異邦人たちも、エルサレムの建設のために用いられる。
- ・12 部族の名が付けられた 12 の門は、常に開かれたままである。
- ・異邦人諸国や王たちは、これらの門を通して貢物を持ってくる。
- ・それをしない者には、裁きが下る。
- ・かつてエルサレムを攻撃した異邦人諸国は、その権威の前にひれ伏す。

＊イザ 62：1～12

- ・千年王国のエルサレムの特徴は、輝きと義である。
- ・その義は、地上のすべての国々に認められる。

- ・新しい名が与えられる。「主はここにおられる」（エゼ 48：35）
- ・さらにこの町は麗しい姿となる。
- ・この町は神の喜びとなり、再び見捨てられ荒廃することはない。
- ・これらの約束の成就を保証するために、城壁の見張り人が置かれる（天使）。
- ・彼らの役割は、神に対してその約束を忘れないでくださいと懇願すること。
- ・エルサレムの住民には、労働の実が保証される。敵が奪うことはない。
- ・エルサレムの贖いと救いは、保証されている。神がそのように約束されたから。

*イザ 65：18～19

- ・喜びと楽しみが、千年王国のエルサレムの特徴である。

*イザ 66：10～14

- ・平和と慰めが、この町の特徴である。

*エレ 3：17

- ・再興したダビデの王座が置かれ、エルサレムは異邦人の注目の的となる。

*エレ 31：6

- ・さらにエルサレムは、ユダヤ人の注目の的ともなる。

*エレ 31：38～40

- ・町のサイズは広がり、聖別され、破壊されることはない。

*エレ 33：9～11

- ・平和と喜びがエルサレムに戻ってくる。
- ・エルサレムの喜び、平和、栄光が、異邦人諸国を魅了する。
- ・かつての荒れ果てた姿は消え、楽しみと喜びの聲がちまたに満ちる。
- ・花婿の聲と花嫁の聲も、聞こえてくる。

*ヨエ 3：17

- ・町の特徴は、聖なることと安全である。神がそこに住まわれるから。

*ミカ 4：6～8

- ・神はエルサレムから、帰還したイスラエルを統治される。

*ゼパ 3：14～17

- ・エルサレムは喜び叫ぶ。なぜなら、町は贖われたから。
- ・神ご自身がここに住み、町の住民を統治される。

*ゼカ 1：14～17

- ・神はエルサレムをねたむほど激しく愛しておられる。
- ・エルサレムを苦しめた異邦人諸国にたいして、神は大いに怒る。

*ゼカ 2：1～5

- ・エルサレムは、かつてないほどのサイズに再建される。

- ・エルサレムは、城壁のない町のようにになる。城壁がなくなるわけではない。
- ・防御のための城壁ではなく、景観のための城壁である。
- ・神がそこに住み、シャカイナグローリーが町を覆う。

＊ゼカ 2：10～12

- ・メシア（神）がそこに住まわれる。
- ・それゆえ、エルサレムは世界中の異邦人諸国の注目の的となる。
- ・エルサレムにある王座に着き、メシアは全イスラエルと聖地を統治する。

＊ゼカ 8：1～8

- ・エルサレムへのねたむほどの愛を持った神は、そこに戻り、そこに住まわれる。
- ・エルサレムは、【主】の家の山の上に立つ真理の町となる。
- ・町には、老若男女が住む。
- ・若者は、千年王国で誕生した者たち。
- ・老人は、千年王国の終わりの時期には、年齢が数百歳にもなる。
- ・千年王国のエルサレムは、神だけが作ることのできる作品である。
- ・世界中から帰還したユダヤ人がそこに住む。

＊ゼカ 8：20～22

- ・エルサレムは世界中の異邦人諸国の注目の的となる。

＊ゼカ 14：9～11

- ・メシアは王として統治する。
- ・【主】の家の山の上にエルサレムが建設されるために、地形は激変する。
- ・かくして、エルサレムは平和と安全の町となる。

＊ゼカ 14：20～21

- ・エルサレムの聖さが強調されている。
- ・馬の鈴から台所のなべや鉢に至るまで、聖なるものとなる。

＊エルサレムの黄金時代は、まだ成就していない。

V. 千年王国における異邦人

A. 一般的特徴

- ＊羊の異邦人（親イスラエル）が千年王国に入る。
- ＊彼らは、千年王国の異邦人地区に住むようになる。

＊イザ 11：10

11:10 その日、エッサイの根は、国々の民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のいこう所は栄光に輝く。

- ・メシアは異邦人の関心の的となる。

＊イザ 14：1～2

14:1 まことに、【主】はヤコブをあわれみ、再びイスラエルを選び、彼らを自分たちの土地にいてこさせる。在留異国人も彼らに連なり、ヤコブの家に加わる。

14:2 国々の民は彼らを迎え、彼らの所に導き入れる。イスラエルの家は【主】の土地でこの異国人を奴隷、女奴隷として所有し、自分たちをとりこにした者をとりこにし、自分たちをしいたげた者を支配するようになる。

- ・異邦人はイスラエルのしもべとなる。

＊イザ 42：1

42:1 見よ。わたしのささえるわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。わたしは彼の上にわたしの霊を授け、彼は国々に公義をもたらす。

- ・異邦人は王の臣下であるが、同時に、王から正義をもって取り扱われる。

＊イザ 49：5～7

49:5 今、【主】は仰せられる。——主はヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、私が母の胎内にいる時、私をご自分のしもべとして造られた。私は【主】に尊ばれ、私の神は私の力となられた。——

49:6 主は仰せられる。「ただ、あなたがわたしのしもべとなって、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

49:7 イスラエルを贖う、その聖なる方、【主】は、人にさげすまれている者、民に忌みきらわれている者、支配者たちの奴隷に向かってこう仰せられる。「王たちは見て立ち上がり、首長たちもひれ伏す。【主】が真実であり、イスラエルの聖なる方があなたを選んだからである。」

- ・その時、メシアは特別な意味で異邦人の光となる。
- ・メシアの召命は、イスラエルを離散の地から帰還させることである（5 節）。
- ・さらに、「諸国の民の光」となり、救いとなるためである（6 節）
- ・メシアは「諸国の民の光」として示され、異邦人の王たちはメシアを礼拝する。

＊イザ 56：1～8

56:1 【主】はこう仰せられる。「公正を守り、正義を行え。わたしの救いが来るのは近く、わたしの義が現れるのも近いからだ。」

56:2 幸いなことよ。安息日を守ってこれを汚さず、どんな悪事にもその手を出さない、このように行う人、これを堅く保つ人の子は。

- 56:3 【主】に連なる外国人は言ってはならない。「【主】はきっと、私をその民から切り離される」と。宦官も言ってはならない。「ああ、私は枯れ木だ」と。
- 56:4 まことに【主】はこう仰せられる。「わたしの安息日を守り、わたしの喜ぶ事を選び、わたしの契約を堅く保つ宦官たちには、
- 56:5 わたしの家、わたしの城壁のうちで、息子、娘たちにもまさる分け前と名を与え、絶えることの無い永遠の名を与える。
- 56:6 また、【主】に連なって主に仕え、【主】の名を愛して、そのしもべとなった外国人がみな、安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、
- 56:7 わたしは彼らを、わたしの聖なる山に連れて行き、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のいけにえやその他のいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。
- 56:8 ——イスラエルの散らされた者たちを集める神である主の御告げ——わたしは、すでに集められた者たちに、さらに集めて加えよう。」
- ・ 1～3 節：異邦人は、神殿での礼拝から除外されるのではないかと不安になる。
 - ・ 4～5 節：しかし、異邦人であっても宦官であっても、除外されることはない。
 - ・ 6～7 節：その時初めて、神の家は「すべての民の祈りの家」となる。
 - ・ 8 節：これが成就するのは、イスラエルの最終的な帰還の時である。

＊イザ 66：18～24

- 66:18 「わたしは、彼らのわざと、思い計りとを知っている。わたしは、すべての国々と種族とを集めに来る。彼らは来て、わたしの栄光を見る。
- 66:19 わたしは彼らの中にしるしを置き、彼らのうちののがれた者たちを諸国に遣わす。すなわち、タルシシュ、プル、弓を引く者ルデ、トバル、ヤワン、遠い島々に。これらはわたしのうわさを聞いたこともなく、わたしの栄光を見たこともない。彼らはわたしの栄光を諸国の民に告げ知らせよう。
- 66:20 彼らは、すべての国々から、あなたがたの同胞をみな、【主】への贈り物として、馬、車、かで、騾馬、らくだに乗せて、わたしの聖なる山、エルサレムに連れて来る」と【主】は仰せられる。「それはちょうど、イスラエル人がささげ物をきよい器に入れて【主】の宮に携えて来るのと同じである。
- 66:21 わたしは彼らの中からある者を選んで祭司とし、レビ人とする」と【主】は仰せられる。
- 66:22 「わたしの造る新しい天と新しい地が、わたしの前にいつまでも続くように、——【主】の御告げ——あなたがたの子孫と、あなたがたの名もいつまでも続く。
- 66:23 毎月の新月の祭りに、毎週の安息日に、すべての人が、わたしの前に礼拝に来る」と【主】は仰せられる。
- 66:24 「彼らは出て行って、わたしにそむいた者たちのしかばねを見る。そのうじは死なず、その火も消えず、それはすべての人に、忌みきらわれる。」

- ・異邦人は、神殿での礼拝に参加できる。
- ・18節：異邦人もまたシャカイナグローリーを見る。
- ・19節：シャカイナグローリーを見た異邦人は、他の異邦人にそれを伝える。
- ・20節a：異邦人はユダヤ人をイスラエルの地に連れ戻すために用いられる。
- ・20節b：異邦人は、【主】の家の山で【主】を礼拝する。
- ・21節：異邦人の中から、祭司やレビ人になる者が出る。
- ・22節：【主】に忠実な異邦人の名と子孫は、いつまでも存続する。
- ・23節：彼らは、新月の祭りと安息日に、礼拝に参加する。
- ・24節：【主】に忠実でない異邦人は、死体となり、魂の苦しみを経験する。

＊まとめ

- ①メシアは、異邦人の礼拝の中心におられる。
- ②ユダヤ人は、異邦人の関心の的となる。
- ③ユダヤの帰還が起ると、異邦人はその手助けをすることになる。
- ④千年王国においては、メシアは「諸国の民の光」となる。

B. 仮庵の祭りを守る責務

＊ゼカ 14：16～19

- 14:16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。
- 14:17 地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。
- 14:18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を【主】が打つその災害が彼らに下る。
- 14:19 これが、エジプトへの刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々への刑罰となる。
- ・16節：異邦人諸国は、仮庵の祭りにはエルサレムに上り、王を礼拝する。
 - ・王への貢物を捧げるのはこの時かも知れない（イザ 60：11）。
 - ・17節：代表を派遣しない国があれば、そこにはその年雨が降らない。
 - ・18～19節：裁きの例として、エジプトが上げられる。
 - ・仮庵の祭りは、出エジプトの出来事と関連している。
 - ・裁きの原則は、どの国でも同じである。

C. アラブ諸国

*アラブ諸国は、イスラエルに対する憎しみを抱き続けてきた。

*イシュマエルとエサウの子孫は、初期の頃からそうであった（民 20：14～21）。

*この憎しみは、聖書時代を通して、また現代に至るまで続いている。

*詩 83：1～8

83:1 神よ。沈黙を続けしないでください。黙っていないでください。神よ。じっとしていないでください。

83:2 今、あなたの敵どもが立ち騒ぎ、あなたを憎む者どもが頭をもたげています。

83:3 彼らは、あなたの民に対して悪賢いばかりごとを巡らし、あなたのかくまわれる者たちに悪だくみをしています。

83:4 彼らは言っています。「さあ、彼らの国を消し去って、イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう。」

83:5 彼らは心を一つにして悪だくみをし、あなたに逆らって、契約を結んでいます。

83:6 それは、エドムの天幕の者たちとイシュマエル人、モアブとハガル人、

83:7 ゲバルとアモン、それにアマレク、ツロの住民といっしょにペリシテもです。

83:8 アッシリヤもまた、彼らにくみし、彼らはロトの子らの腕となりました。

・1～3 節：イスラエルに対する共謀。彼らは悪賢い民である。

・4 節：彼らの意図は、イスラエルの滅亡である。

・エジプトのナセル大統領

六日戦争（1967 年）の直前に、これと同じような言葉を繰り返し語った。

・5 節：諸国は、イスラエルと戦うために契約を結ぶ。

・6～8 節：諸国の名が列挙されている。現代のアラブ国家の地域である。

エドム：ヨルダンの南部地区

イシュマエル人：アラブ人の先祖イシュマエルの子孫

モアブ：ヨルダンの中央部

ハガル人：エジプト

ゲバル：レバノン

アモン：ヨルダンの北部地区

アマレク：シナイ半島

ツロの住民：レバノン

ペリシテ：ガザ回廊

アッシリヤ：イラクと、シリアの一部

・これらの諸国は、大患難時代において最強の陰謀を企む。

*エゼ 35：1～5

・エドム（ヨルダンの南部地区）に下る神の裁き。その地は荒廃する。

- ・エドムは、ユダヤ人の逃避者をバビロンに渡した。
- ・エドムもまた、バビロンによって制圧されていた。

＊オバ 10～14 節

- ・バビロンによる制圧の前に起こった別の出来事である。
- ・この時も、エドムはイスラエルに対して同じような罪を犯した。

＊千年王国におけるアラブ諸国の地位を決定する 2 つの原則

- ①その国における反ユダヤ主義の歴史
- ②イスラエルとの血縁関係がどれくらい近いのか

＊イスラエルとアラブ諸国の間の平和の達成

- ①占領によって
- ②破壊によって
- ③回心によって

1. レバノン

＊占領によって平和が来る（聖句からの類推）。

＊エゼ 47：13～48：29

- ・千年王国におけるイスラエルの領地の境界線
- ・イスラエルはレバノンの全部を所有するようになる。
- ・北に居住するイスラエルの部族のいくつかがそこに居住する。
- ・レバノンは約束の地の一部であるが、イスラエルが所有したことはない。
- ・千年王国においては、レバノンという国は存在しない。

2. ヨルダン

a. エドム：ヨルダン南部

＊破壊による平和

＊エゼ 35：6～9

- ・大規模な荒廃
- ・山や丘や谷は、血と死体で満ちる。
- ・エドムは永遠に荒廃した地となる。

＊エレ 49：7～13

- ・強調点は、エドムの地の荒廃ではなく、エサウの子孫の滅亡である。
- ・エドムには【主】を信じる機会が与えられたが、彼らは無視した。
- ・エドムの不義は満ち、彼らは神の怒りの杯を呑むようになる。

- ・エドムは驚きと非難の的となり、そこは荒廃と呪いの地となる。
- ・19～20 節：エドムの荒廃は、戦争の結果やってくる。

＊オバ 5～9 節

- ・エドムの滅びがオバデヤ書のテーマである。
- ・破壊は完全なものである。友人、自らの知恵、軍事力は助けにならない。
- ・17～21 節：イスラエルの最終的な回復の時は、エドムの破壊の時である。
- ・イスラエルの 2 つの家は 1 つとなり、エドムに勝利する。
- ・エサウの子孫は全滅し、ヤコブの子孫がエドムの地を所有する。
- ・シオンの山から裁きが出て、エドムの上に下る。

＊エゼ 25：12～14

- ・エドムを裁く方法として、イスラエル（軍事力）が用いられる。
- ・エドムの崩壊は完全である。
- ・メシア的王国においては、エドムという国は存在しない。

b. モアブ：ヨルダン中央部

＊エレ 48：1～46

- ・モアブもまた崩壊を経験するが、それは全的崩壊ではない。
- ・47 節：生き延びた者たちは悔い改め、モアブの残れる者たちが戻ってくる。

＊平和は、部分的な破壊と、そこから来る民族的な悔い改めによって実現する。

＊メシア的王国においては、モアブと呼ばれる救われた国が存在する。

c. アモン：ヨルダン北部

＊エレ 49：1～2

- ・部分的崩壊を経験し、その地はイスラエルのものとなる。
- ・モアブと同様、これは全的崩壊ではない。
- ・残された者たちは、【主】に立ち返る。
- ・6 節：アモンの残された者が、メシア的王国において存在する。
- ・メシア的王国においては、アモンと呼ばれる救われた国が存在する。

まとめ

- ・エサウの子孫であるエドムは完全に滅びる。
- ・モアブとアモンの崩壊は部分的である。
- ・千年王国においては、モアブとアモンという国が存在し、イスラエルに仕える。
- ・モアブとアモンはロト（アブラハムの甥）の子孫である。

- ・イスラエルとの血縁は、エサウの場合よりも離れている。

3. エジプト

＊イザ 19：1～22

- ・エジプトはその罪のゆえに裁きを受ける（戦争、荒廃、飢饉）。
- ・指導者が民を迷わせた。
- ・ファールーク王、ナセル、サダトの下で、4回の対イスラエル戦があった。
- ・結果は、多くの犠牲者と経済的破綻であった。
- ・16～17 節：イスラエルに対する恐れが生まれた。
- ・これは 1948 年以降、特に六日戦争以降に生まれた感情である。
- ・預言的には、今はイザ 19：16～17 の時代である。
- ・18 節：イスラエルとエジプトの間に平和が来る。最初は政治的平和である。
- ・エジプトの 5 つの町でヘブル語が話される。
- ・19～22 節：エジプトは徐々に回心へと向かう。
- ・イスラエルの神への祭壇が建てられる。
- ・エジプトは、反キリストとその軍勢によって抑圧される（ダニ 11：42～43）。
- ・神はエジプトを圧制者から救い出す。
- ・彼らを救うことができるのは、イスラムの神ではなく、イスラエルの神である。
- ・この認識が彼らを国家的回心へと導く。
- ・エジプトは、いけにえとささげ物、誓願をもってイスラエルの神を礼拝する。
- ・エジプトが【主】に立ち返れば、【主】は彼らに新生と癒しをもたらす。
- ・大患難時代とハルマゲドンの戦いの際に、エジプトの回心は起こる。
- ・エジプトは、羊の異邦人の仲間に入る。
- ・エジプトは反キリストの軍勢と戦う国のひとつである（ダニ 11：40）。

＊ヨエ 3：19

- ・エジプトはイスラエルを憎んだために、荒廃を経験する（エドムと同じ）。
- ・エドムの荒廃は全的で永続的であるが、エジプトの荒廃は一時的なものである。

＊エゼ 29：1～16

- ・エジプトの荒廃は、千年王国の最初の 40 年間だけである。
- ・エゼキエルは、エジプト人たちの離散を預言する。
- ・40 年後にエジプト人は再び集められ、祖国に連れ戻される。
- ・エジプトは決して元の大国にはなれない。
- ・イスラエルもエジプトに信頼を置くようなことはしない。【主】にのみ信頼。

- ・復興したエジプトもまた、仮庵の祭りを守るようになる（ゼカ 14：16～19）。

＊まとめ

- ・イスラエルとの平和は、エジプトの回心を通してやってくる。
- ・最初の 40 年は荒廃の期間。離散の民となる。
- ・その後エジプトは回心し、帰還し、王国を再建する。

4. アッシリヤ：イラク北部

＊イザ 19：23～25

- ・イスラエルとの平和は、回心を通して実現する。
- ・エジプト、イスラエル、アッシリヤの経済共栄圏
- ・古代からの通商路「**ヴィア・マリス**」は、1948 年以降機能していない。
- ・千年王国においては、これが再度開かれる。
- ・エジプト同様、アッシリヤも回心を経験する。
- ・アッシリヤは地において祝福となり、神からの祝福を受ける。
- ・かつて敵同士であった 3 つの国が、霊的、経済的、政治的一致を獲得する。

「わたしの民エジプト」

「わたしの手でつくったアッシリヤ」

「わたしのものである民イスラエル」

5. ケダルとハツォル：サウジアラビア

＊エレ 49：28～33

- ・イスラエルとサウジアラビアの平和は、破壊を通してやってくる。
- ・サウジアラビアは、戦争によって荒廃し、住民は全世界に離散する。
- ・この地は、千年王国の間、荒廃した地となる。
- ・エジプトの荒廃は 40 年であるが、サウジアラビアの荒廃は 1000 年続く。

6. エラム：ペルシャあるいはイラン

＊エラム：ペルシャあるいはイランは、アラブの国ではないが、イスラム教国である。

＊エレ 49：34～39

- ・イスラエルとの平和は、破壊を通してやってくる。
- ・破壊は部分的であり、離散も一時的である。
- ・最終的には人々は帰還し、イランに定住する。
- ・イランの運命はエジプトに似ているが、離散の期間に関しては不明である。
- ・千年王国においては、エラム（ペルシャあるいはイラン）は存在する。

D. 千年王国における 2 つの荒廃した地

* 千年王国では、世界は非常に生産性に富み、美しい。

* しかし、荒廃した地が 2 箇所存在する。

1. バビロン：イラク南部

* 反キリストの都、かつての世界の首都、バビロン

* イザ 13：20～22

* エレ 50：39～40

- ・ ソドムとゴモラのような荒廃した、人の住めない地。

* エレ 51：41～43

- ・ バビロンの荒廃は完全である。

- ・ 千年王国の間、人の子が通りもしない地になる。

* 黙 19：3

- ・ 永遠に煙が立ち上る地

- ・ イザ 13：20～22 とエレ 50：39～40 に登場する獣は、そこには住めない。

- ・ 獣というのは、比喩的言葉である。

- ・ 黙 18：1～2 の説明：悪霊どもを閉じ込める場所である。

- ・ 黙 9 章や他の箇所によれば、悪霊は獣のような姿をしている。

- ・ 「**野やぎ**」（イザ 13：21）は、ヘブル語でやぎの姿をした悪霊である。

新共同訳では、「山羊の魔神」と訳されている。

2. エドム：ヨルダン南部

* イザ 34：8～15

- ・ イスラエルへの罪のゆえに

- ・ バビロン同様、永遠に煙が立ち上る地である。

- ・ 人間は住めない地。

- ・ ここもまた悪霊の住み家となる。

- ・ 「**こうもり**」（14 節）は、ヘブル語で夜の怪物である。

新共同訳では、「夜の魔女」と訳されている。

- ・ バビロン同様、エドムもまた悪霊の住み家となる。

* エレ 49：17～8

- ・ 荒廃は完全である。

- ・ 人の子が通りもしない。

- ・バビロン同様、ソドムとゴモラのような地になる。

*エゼ 35：10～15

- ・荒廃の理由は、イスラエルとユダの滅びを喜んだことにある。
- ・かつてイスラエルに下った災難は、より激しい形でエドムに下る。

*ヨエ 3：19

- ・エジプトの荒廃は、40 年に限定されていた。
- ・エドムの荒廃は、千年王国の間続く。

VI. メシア的王国の終わり

- *人類の墮落以降、最高の状況が千年間続く。
- *しかし、これは理想的な状態ではない。
- *罪と死は激減したとは言え、まだ存在する。
- *千年王国の終わりに、人類に最後のテストが与えられる。

A. サタンの解放と最後のイスラエルへの侵略

*黙 20：7～10

- 20:7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、
- 20:8 地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。
- 20:9 彼らは、地上の広い平地に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽くした。
- 20:10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。
- ・7 節：千年が満ちると、サタンは牢（アビス）から解き放される。
 - ・8 節：サタンは再び諸国（異邦人）を惑わす働きをする。
 - ・この時点では、未信者が多く存在する（全員 100 歳以下）。
 - ・ゴグとマゴグという言葉は、サタンの欺きが地の果てまで及ぶことを示す。
 - ・さらに、この侵略が大患難時代の前に起きる侵略に似ていることを示す。
 - ・この侵略もまた、イスラエルに対するものである（エゼ 38：1～39：16 参照）。
 - ・9 節：サタンの欺きは大きな影響を与え、世界大の反乱が起こり始める。

- ・異邦人の軍勢が千年王国のイスラエルに侵攻し、エルサレムを包囲する。
- ・しかし、天からの火によって、彼らは瞬時に焼き尽くされる。
- ・10 節：サタンは火と硫黄との池に投げ込まれる（第 6、そして最後の住居）。
- ・反キリストと偽預言者は、千年前からそこに入っている。
- ・これでサタンの活動はすべて終了する。

＊1 コリ 15：24～28

- 15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。
- 15:25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。
- 15:26 最後の敵である死も滅ぼされます。
- 15:27 「彼は万物をその足の下に従わせた」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。
- 15:28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。
- ・イエシュアは、死と復活のゆえに、メシア的王国において権威を持たれた。
 - ・マタ 28：18b 参照
- 「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています」
- ・この権威は、現在は教会を通して行使されている。
 - ・将来は、千年王国においてメシア自身が行使する。
 - ・24 節：神に敵対する者が滅ぼされた後、御国の権威は父なる神に渡される。
 - ・25 節：それまでは、メシアの支配が続く。
 - ・26 節：最後の敵は、サタンではなく、死である。
 - ・千年王国において死は依然として存在していた。
 - ・サタンが火の池に閉じ込められた後、死はなくなる。
 - ・27～28 節：かくして千年王国は終わりを迎える。
 - ・万物がメシアに服従するようになる。
 - ・その段階で、メシア自身も父なる神の権威に従う。

B. 大きな白い御座の裁き

＊千年王国の終わりに大きな白い御座の裁きがある。永遠の秩序への準備である。

＊黙 20：11～12

- 20:11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。
- 20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、

数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。

- ・ 11 節 a：この預言は、御座に着座している方の幻で始まる。
- ・ この方は、メシアであるイエシュアである（ヨハ 5：22）。
- ・ 11 節 b：創 1 章以降存在していた天と地は逃げ去り、あとかたもなくなる。
- ・ 千年王国では、天と地の修復があったが、人類の最後の反乱で汚された。
- ・ 12 節：この裁きは、あらゆる時代の不信者の裁きである。
- ・ 救われているかどうかの判定ではなく、裁きの程度を決するための裁きである。

1. 裁きの程度を決するための原則

＊マタ 11：20～24

- 11:20 それから、イエスは、数々の力あるわざの行われた町々が悔い改めなかったので、責め始められた。
- 11:21 「ああコラジン。ああベツサイダ。おまえたちのうちで行われた力あるわざが、もしもツロとシドンで行われたのだったら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。
- 11:22 しかし、そのツロとシドンのほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえたちよりは罰が軽いのだ。
- 11:23 カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。おまえの中でなされた力あるわざが、もしもソドムでなされたのだったら、ソドムはきょうまで残っていたことだろう。
- 11:24 しかし、そのソドムの地のほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえよりは罰が軽いのだ。」
- ・ どれくらいの光（啓示）が与えられていたか。
 - ・ その光にどのように応答したか。
 - ・ イエスは、罰には軽重があると教えておられる。

＊ルカ 12：47～48

- 12:47 主人の心を知りながら、その思いどおりに用意もせず、働きもしなかったしもべは、ひどくむち打たれます。
- 12:48 しかし、知らずにいたために、むち打たれるようなことをしたしもべは、打たれても、少しで済みます。すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されます。
- ・ 多くむち打たれる者と、少なくむち打たれる者とがいる。

*ヨハ19:11

19:11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」

- ・罪には軽重がある。

2. 裁きの程度を決するための書物

*いのちの書（黙20:12）以外に、小羊のいのちの書、その他の書がある。

a. いのちの書

- ・誕生した人すべての名が書かれている。
- ・詩139:16

139:16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。

- ・メシアを信じる者は、その名が消されることはない。
- ・黙3:5

3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。

- ・しかし、救われていない者の名は、いのちの書から消される。
- ・詩69:28

69:28 彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがありませんように。

- ・不信者は、死の瞬間にその名がいのちの書から消される。
- ・大きな白い御座の裁きで、その書に名が書かれていないなら、救われていない。

b. その他の書

- ・黙20:12に、「数々の書物」が出て来る。
- ・この中に、その人の行為が記されている。
- ・その内容に応じて、裁きの度合いが決まる。

c. 小羊のいのちの書

- ・新生した者の名前だけが書かれている。
- ・その名前は、天地創造の前から書かれていた。
- ・黙13:8

13:8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしる

されていない者はみな、彼を拝むようになる。

・黙 17：8b

17:8 地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現れるのを見て驚きます。

・詩 69：28 では、義人の書と言われている。

69:28 彼らがいのちの書から消し去られ、正しい者と並べて、書きしるされることがありませんように。

・救いは永遠なので、この書から名前が消されることはあり得ない。

VII. 永遠の秩序

*メシア的王国は、旧約聖書の預言の頂点である。

*永遠の秩序は、新約聖書の預言の頂点である。

*黙 1～20 の内容は、旧約聖書にも出て来る。

*黙 21～22 の内容は、全く新しい情報である。

*メシア的王国は 1 千年続くだけである。

*ダビデ契約では、永遠の王朝、永遠の王国、永遠の王座が約束されている。

*永遠の王朝は、永遠の人物（メシアであるイエシュア）によって保証されている。

*永遠の王国と永遠の王座は、永遠の秩序の中で成就する。

*永遠の秩序を取り扱っているのは、黙 21：1～22：5 である。

A. 過ぎ去る古い秩序と永遠の秩序の創造：黙 21：1～8

1. 新しい秩序：21：1～2

21:1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

*1 節：新しい天と新しい地が創造される。海がなくなる。

・現在の地は、最初は鉱物の園から成っていた。宝石がそこを覆っていた。

・サタンの第 2 の住居であった（エゼ 28：11～16）。

・サタンは墮落し、裁かれた。と同時に、地はサタンの支配下に入った。

・その裁きの結果、地は水で覆われた（創 1：2）。

・海は、最初の地が裁かれた結果であるが、新しい地では海は存在しない。

＊2 節：新天新地は創造される必要があるが、新しいエルサレムはすでに存在する。

- ・新しいエルサレム（第3の天にある）は、新しい地に下ってくる。
- ・花嫁のように整えられている。
- ・ガラ 4：26 「上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です」
- ・地上のエルサレムとは異なり、天のエルサレムは常に自由である。
- ・ヘブ 11：9～10 アブラハムが待ち望んだ町である。

11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

11:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

- ・ヘブ 12：22～24 贖われた者たちの永遠の住まい

12:22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

12:23 また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、

12:24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。

- ・三位一体の神が住む。
- ・天使のすべてが住む。
- ・教会時代の聖徒たちが住む。
- ・全うされた義人たちの霊とは、旧約時代の聖徒たちである。

信仰によって義とされていたが、メシアに死によって完全な者となった。

- ・書かれてはいないが、大患難時代の聖徒たち、千年王国の聖徒たちも住む。

2. 王座に着く者が発する第1の宣言：21：3～4

21:3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神で自身が彼らとともにおられて、

21:4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

①神が人とともに住む。

- ・ヘブ 12：22～24 の約束
- ・住むとは、幕屋を張るという意味である。
- ・シャカイナグローリーが人とともにある。

②創 3：16～19 にある呪いは、すべて取り去られる。

3:16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、

苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」

3:17 また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。

3:18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」

・永遠の秩序においては、死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。

3. 王座に着く者が発する第2の宣言：21：5～8

21:5 すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」
また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信すべきものであり、真実である。」

21:6 また言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる。

21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

21:8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である。」

*5節：約束をされた方の真実性のゆえに、永遠の秩序に関する約束は成就する。

*6節：いのちの泉が用意される。

*7節：新天新地、新しいエルサレムは、信者が受け継ぐ。

*8節：不信者が受け継ぐのは、第二の死（火の池）である。

B. 永遠の新しいエルサレム：21：9～22：5

1. 町の設立に関する啓示：21：9～10

21:9 また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私はあなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」

21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せた。

*黙21：2の内容の詳述である。

*ヨハネは、黙4：1と同じように、高い所に招かれた。

*9～10 節：小羊の妻である花嫁とは、新しいエルサレムのことである。

2. 新しいエルサレムの描写：21：11～22：5

a. 栄光：21：11

21:11 都には神の栄光があった。その輝きは高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。

- ・この栄光とは、シャカイナグローリーである。

b. 城壁：21：12～13

21:12 都には大きな高い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった。

21:13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。

- ・城壁は、その町の安全を象徴している。
- ・大きな高い城壁とあるが、具体的なサイズは啓示されていない。
- ・12 の門、12 人の御使いの権威、12 部族の名前
- ・東西南北それぞれに、3 つの門がある。

c. 城壁の土台：21：14

21:14 また、都の城壁には十二の土台石があり、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。

- ・土台は、永続性の象徴である。
- ・12 の土台石があり、12 使徒の名が書かれている。

d. 町の広さ：21：15～17

21:15 また、私と話していた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。

21:16 都は四角で、その長さとは幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。

21:17 また、彼がその城壁を測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。これが御使いの尺度でもあった。

- ・町のサイズは、広大さを象徴している。
- ・町は立方体で、一辺が約 1,500 マイル（約 2,400 キロメートル）ある。
- ・すべての時代の聖徒たちが住むのに十分な空間がある。
- ・壁の高さは、216 フィート（約 65 メートル）ある（12 節参照）。

e. 町の構造：21：18～21

- 21:18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。
- 21:19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、
- 21:20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。
- 21:21 また、十二の門は十二の真珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。
- ・城壁は碧玉。
 - ・都は混じりけのないガラスに似た純金。
 - ・城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られている。
 - ①碧玉、②サファイヤ、③玉髄、④緑玉、⑤赤縞めのう、⑥赤めのう
 - ⑦貴かんらん石、⑧緑柱石、⑨黄玉、⑩緑玉髄、⑪青玉、⑫紫水晶
 - ・エゼ 28：13 によれば、元の地には 10 の宝石があった。
 - ・新しい地にはさらに 2 つの宝石が加わり、合計 12 の宝石がある。
 - ・12 の門は、それぞれ巨大な一つの真珠からできている。
 - ・都の大通りもまた、透き通ったガラスのような純金でできている。

f. 存在しないもの：21：22～24

- 21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。
- 21:23 都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。
- 21:24 諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。
- ・神殿がない。
 - ・歴史上、4 種類の神殿が存在することになるが、永遠の秩序ではそれがない。
 - ・三位一体の神がそこにおられるから。
 - ・太陽と月もない（創 1 章では、4 日目に創造された）。
 - ・光の創造者である神が光源となり、小羊のシャカイナグローリーも輝く。
 - ・異邦人はこの光によって歩む。かつて王であった者たちも同様である。
 - ・ユダヤ人と異邦人の区別は、永遠に存在する。
 - ・機能的な違いについては、なんの言及もない。

g. 入り口：21：25～27

- 21:25 都の門は一日中決して閉じることがない。そこには夜がないからである。
- 21:26 こうして、人々は諸国の民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。
- 21:27 しかし、すべて汚れた者や、憎むべきことと偽りとを行う者は、決して都に入れ

ない。小羊のいのちの書に名が書いてある者だけが、入ることができる。

- ・12の門が閉ざされることはない。
- ・夜が存在しない。
- ・闇の存在は、サタンの墮落の結果もたらされた呪いである（創1：2）。
- ・創造の6日間で、部分的に闇と夜が除かれた。
- ・永遠の秩序においては、罪の呪いが取り除かれるので、夜は存在しなくなる。
- ・都に入れるのは、救われた者（小羊のいのちの書に名が書かれた者）だけ。
- ・罪人は都に入れない。火の池に閉じ込められている。

h. 命の川：22：1～2a

22:1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、

22:2 都の大通りの中央を流れていた。

- ・神と小羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れる川
- ・水晶のように光るいのちの水の川

i. いのちの木：22：2b

22:2 川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。

- ・エデンの園にあったいのちの木は、戻ってくる（創2：9、3：22、24）。
- ・毎月、12種の実を実らせる。
- ・永遠の秩序においても、なんらかの暦がある。
- ・いやしとは、そこに存在している病のいやしではなく、健康を与えること。
- ・いのちの木の葉のゆえに、病は存在しない。
- ・「諸国の民」とは異邦人のこと。ユダヤ人と異邦人の区別は存在する。

j. 住民：22：3～4

22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中であって、そのしもべたちは神に仕え、

22:4 神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。

- ・呪いはいっさい存在しない。
- ・住民は、小羊と、額にイエスの名がついている人たちである。

k. 栄光：22：5

22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

- ・夜は存在しないということが、再度記されている。
- ・ともしびの光も太陽の光も不要である。
- ・シャカイナグローリーが光となる。

チャート 1. 聖なる奉納地

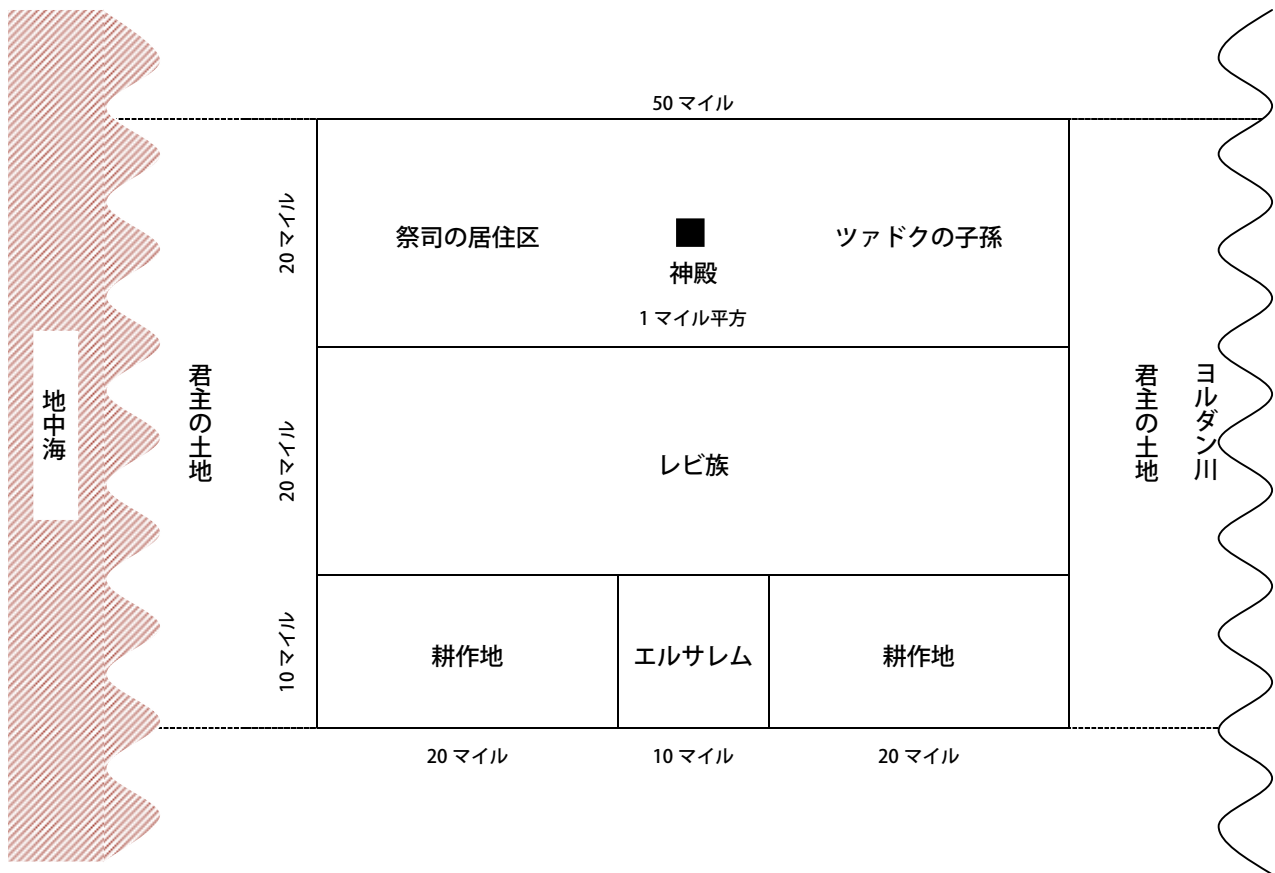
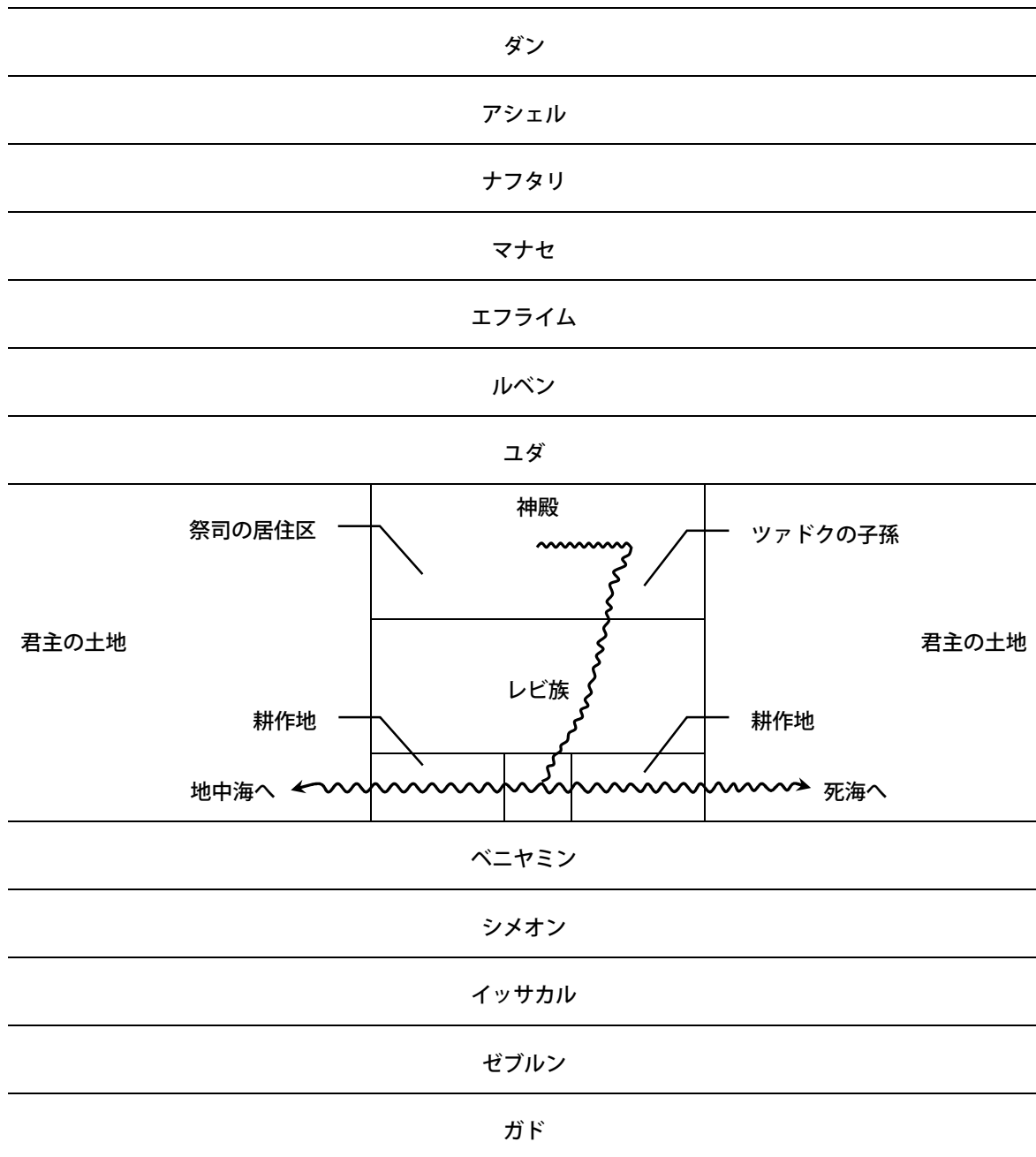


チャート 2. 千年王国におけるイスラエル



フルクテンバウム・セミナーDVD／CD

2012 年『聖書が教える死後の世界 — 個人的終末論 —』	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
2011 年『聖書が教える救いとは』	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
「救いの 10 の側面」「33 の事項：位置的真理に関する学び」	
2010 年『天使論、サタン論、悪霊論』	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
2009 年『終末論とイスラエル』	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
「ロマ書 9 章～11 章の研究」「ロマ書とユダヤ人」	
2008 年『神の人類救済プログラム』	CD 8 枚組
1. ディスペンセーションとは何か 2. ディスペンセーションの種類 3. 契約神学（置換神学の主流） 4. 解釈学 5. 救済論 6. 教会論 7. 終末論	
2007 年『三位一体』	CD 4 枚組
イントロダクション 1. 神の位格の複数性 2. 神の位格の単一性 3. 三位一体の神 4. 結論	
2007 年『旧約聖書におけるメシア預言』	CD 4 枚組
イントロダクション 1. 律法 2. 預言書	
2006 年『イスラエル学』	CD 8 枚組
1. 過去のイスラエル 2. 現在のイスラエル 3. 将来のイスラエル 4. その他の関連事項	
2005 年『ユダヤ的視点から見たメシアの生涯』	CD 12 枚組
1. その誕生と成長過程 2. イエスの教えとパリサイ人との葛藤 3. メシアの裁判 4. メシアの死 5. 復活と昇天	
2003 年『ヨハネの黙示録』	CD 6 枚組
1. ヨハネが見たこと 2. 今ある事 3. この後に起こること 結論	
2002 年『聖書の八つの契約』	CD 9 枚組
はじめに 1. エデン契約 2. アダム契約 3. ノア契約 4. アブラハム契約 5. モーセ契約 6. パレスチナ契約 7. ダビデ契約 8. 新しい契約 結論	
2001 年『イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト』	CD 10 枚組
1. 過越の祭り 2. 種を入れないパンの祭り 3. 初穂の祭り 4. 七週の祭り(ペンテコステ) 5. 春の祭りと秋の祭りの間の 4 か月 6. ラッパの祭り 7. 贖罪の日 8. 仮庵の祭り	

ご注文はハーベスト・タイム（055-993-8880）まで。



無断複製・転載を禁じます

2013 年 4 月、5 月開催（大阪、東京）